

環境影響評価事前調査書  
—東北学院大学五橋キャンパス整備計画—

平成 29 年 7 月

学校法人 東北学院



## 目 次

1. 対象事業の概要.....	1-1
1.1. 事業者の氏名及び住所.....	1-1
1.2. 対象事業の名称, 種類, 及び目的.....	1-1
1.2.1. 事業の名称.....	1-1
1.2.2. 事業の種類.....	1-1
1.2.3. 事業の目的.....	1-1
1.3. 事業実施の位置.....	1-2
1.4. 事業の内容.....	1-6
1.4.1. 事業概要.....	1-6
1.4.2. 施設配置計画.....	1-7
1.4.3. 緑化計画.....	1-7
1.5. 環境の保全及び創造等に係る方針.....	1-8
1.5.1. 工事中における方針.....	1-8
1.5.2. 供用後における方針.....	1-8
1.6. 事業計画の検討経緯.....	1-9
1.6.1. 東北学院大学五橋キャンパス整備計画基本構想等.....	1-9
1.7. 事業の実施工程計画.....	1-10
2. 事前調査対象範囲.....	2-1
3. 事前調査結果.....	3-1
3.1. 水象.....	3-1
3.2. 地形・地質.....	3-6
3.3. 植物.....	3-13
3.4. 動物.....	3-30
3.5. 景観.....	3-41
3.6. 自然との触れ合いの場.....	3-45
3.7. 文化財.....	3-65
3.8. その他の指定状況.....	3-73
4. 保全等に配慮すべき地域又は対象.....	4-1
4.1. 保全等に配慮すべき地域又は対象の考え方.....	4-1
4.1.1. 保全等に配慮すべき地域又は対象の選定基準.....	4-1
4.1.2. 保全等に配慮すべき地域又は対象への影響の有無.....	4-6
4.1.3. 配慮区分による「保全等に配慮すべき地域又は対象」のうち, 影響が懸念される 地域又は対象.....	4-25
4.2. 自然環境等の保全の観点から留意すべき事項又は環境配慮の方針.....	4-27



## 1. 対象事業の概要



## 1. 対象事業の概要

### 1.1. 事業者の氏名及び住所

事業者：学校法人 東北学院  
代表者：理事長 松本 宣郎  
所在地：仙台市青葉区土樋一丁目 3 番 1 号  
代表者の電話番号：022-264-6464

### 1.2. 対象事業の名称, 種類, 及び目的

#### 1.2.1. 事業の名称

東北学院大学五橋キャンパス整備計画  
(以下、「本事業」という。)

#### 1.2.2. 事業の種類

大規模建築物の建設の事業

#### 1.2.3. 事業の目的

本事業は、仙台市立病院の跡地に学都仙台の連携・交流シンボルとなる東北学院大学の新キャンパス（五橋キャンパス）を整備するものである。

東北学院大学は「キリスト教の信仰に基づく人格教育」を旗印に教養教育を重視した総合大学として、様々な領域の学問を学ぶ若者たちが集い、異なる能力を持ち寄って、新たなものをつくる歓びを体験できるキャンパスライフのより高度な展開のために、仙台都心での交流拠点として従来の土樋キャンパスに加え、五橋キャンパスを整備し都市型の一体的な「ひとつのアーバンキャンパス」とすることを目指す。五橋キャンパスは、多くの学生が集うキャンパスとしての機能に加え、市民に開かれたキャンパスとして公開講座の開催、市民が学ぶ機会の創出、レストランやホールなどの憩いの空間を整備する計画としている。さらに地域との連携拠点機能を持ち、新たな交流拠点として仙台市という都市ブランドの更なる向上や新たな賑わいの創出に資するものとする。

※本書では、以下の地図を下図として使用している。

「1:50,000 仙台市地形図」(平成 19 年 7 月 仙台市)

「1:25,000 仙台市地形図 2」(平成 19 年 7 月 仙台市)

「1:10,000 仙台市都市計画基本図 首部・南部」(平成 18 年 仙台市)

### 1.3. 事業実施の位置

対象事業計画地の位置は図 1-1及び図 1-2ならびに写真 1-1, 対象事業計画地周辺の状況は写真 1-2に示すとおりである。

対象事業計画地は, 仙台市営地下鉄南北線五橋駅の東側に隣接しており, JR 仙台駅より南に約 1km 離れている。

対象事業計画地周辺の主要な道路として, 西側は一般国道 286 号から分岐した愛宕上杉通 2 号線と接している。また, 対象事業計画地より北側 100m には連坊小路線, 南側約 100m には一般県道 235 号荒井荒町線, 南側約 300m には土樋藤塚線が位置している。

位 置 : 仙台市若林区清水小路

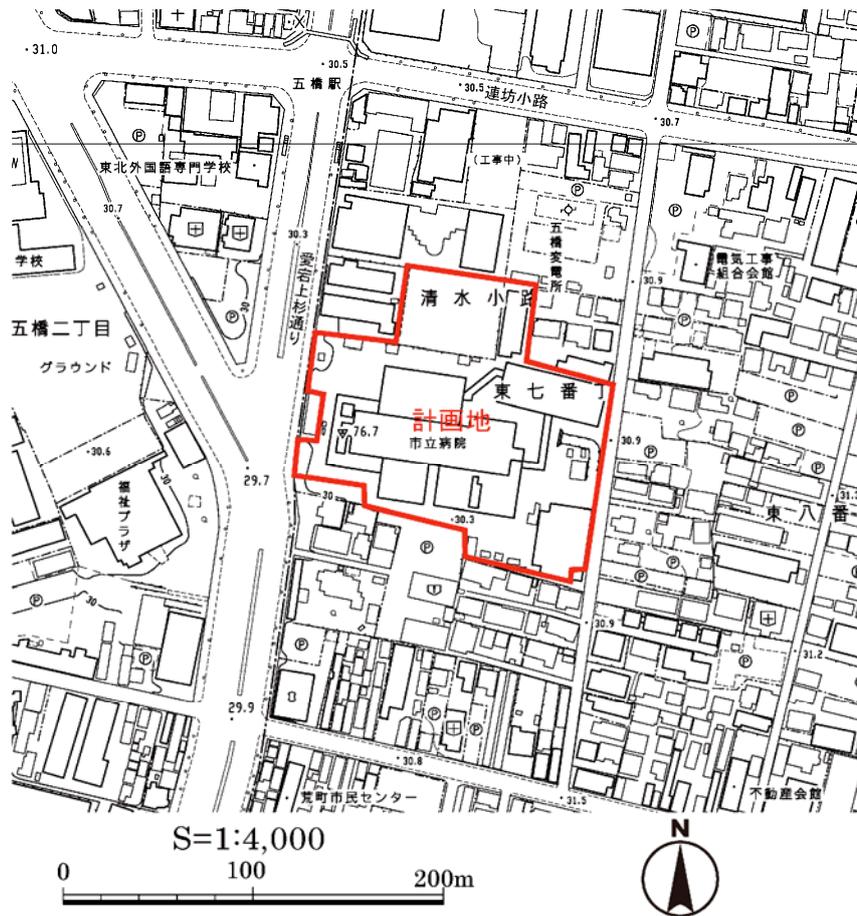
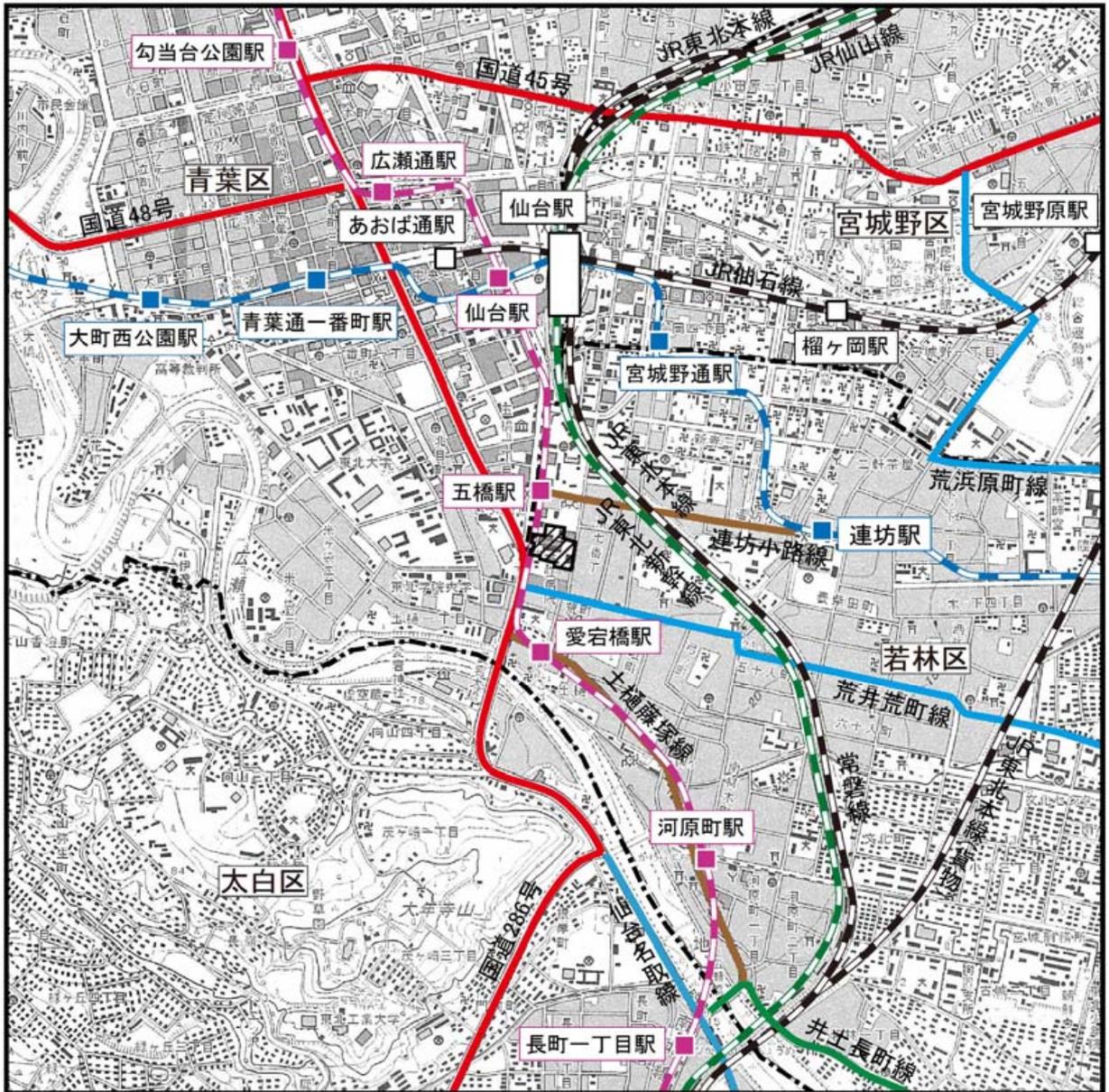


図 1-1 対象事業計画地の位置(東北学院大学五橋キャンパス)



凡 例

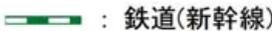
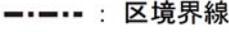
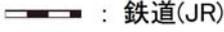
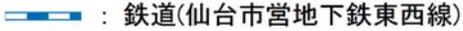
- |   |           |  |                  |
|---|-----------|--|------------------|
|  | : 対象事業計画地 |  | : 鉄道(新幹線)        |
|  | : 区境界線    |  | : 鉄道(JR)         |
|  | : 国道      |  | : 鉄道(仙台市営地下鉄南北線) |
|  | : 主要地方道   |  | : 鉄道(仙台市営地下鉄東西線) |
|  | : 県道      |  |                  |
|  | : 市道      |  |                  |

図 1-2 対象事業計画地位置図



S=1:25,000  
0 250 500 1000m



凡 例

 : 対象事業計画地

①～⑧ : 「写真 1-2 対象事業計画地周辺の状況」の撮影位置・方向

写真 1-1 空中写真



S=1:10,000

0 250 500m



① 東七番丁線より対象事業計画地北東側を望む



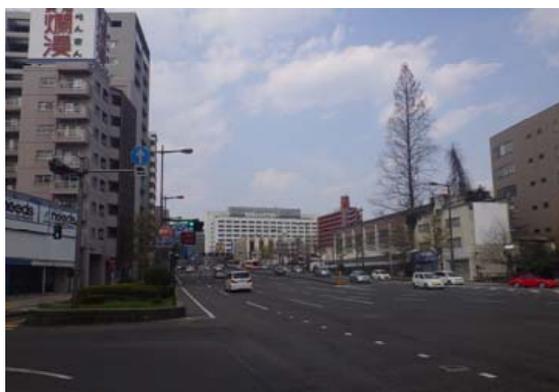
② 東七番丁線より対象事業計画地南東側を望む



③ 一般国道 286 号より対象事業計画地南西側を望む



④ 愛宕上杉通2号線より対象事業計画地北西側を望む



⑤ 一般国道 286 号より対象事業計画地南側を望む



⑥ 荒町小学校



⑦ 五橋中学校



⑧ 仙台市営地下鉄南北線五橋駅

写真 1-2 対象事業計画地周辺の状況 (H29 年 4 月撮影)

## 1.4. 事業の内容

### 1.4.1. 事業概要

本事業の概要は、表 1-1に示すとおりである。

本事業は、平成 26 年 11 月にあすと長町に移転した旧仙台市立病院の敷地（敷地面積約 17,500m<sup>2</sup>）において、既存建築物を解体し、その跡地に学校施設を建設する計画である。

主な建築物は、ホール棟、講義棟、高層棟及び研究棟である。延べ面積は約 59,500m<sup>2</sup>、建築物の高さは最大 80m の予定である。

駐車場は約 110 台を確保する計画である。また、駐輪場（二輪車・原付）約 300 台、自転車駐輪場約 800 台を計画している。

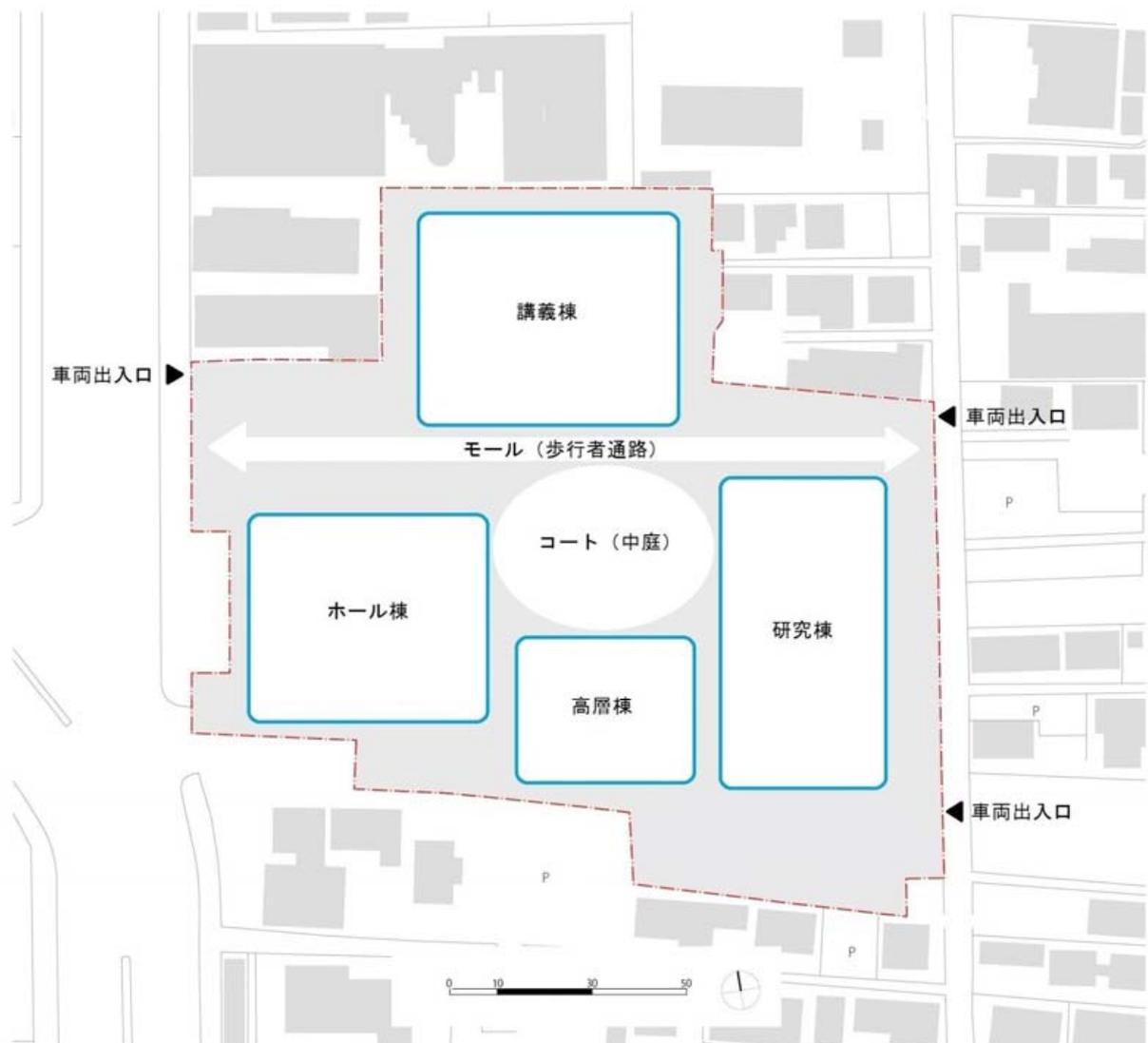
表 1-1 事業概要

項 目	内 容
事 業 名 称	東北学院大学五橋キャンパス整備計画
種 類	大規模建築物の建設の事業
位 置	仙台市若林区清水小路 他
主 要 用 途	学校施設
敷 地 面 積	約 17,500 m <sup>2</sup>
建 築 面 積	約 9,000 m <sup>2</sup>
延 べ 面 積	約 59,500 m <sup>2</sup>
建 築 物 の 高 さ	ホール棟・講義棟：約 30m, 高層棟：最大 80m, 研究棟：約 40m
建築工事予定期間	平成 30～34 年度(解体工事を含む)
供 用 開 始 予 定	平成 35 年度～
環境影響評価を実施することになった要件	「仙台市環境影響評価条例」(平成 10 年 仙台市条例第 44 号) 第 2 条第 3 項第 21 号 延べ面積が 50,000 平方メートル以上の大規模建築物の建設の事業

#### 1.4.2. 施設配置計画

対象事業計画地は、広場と建築物群をモールでつなぎ、キャンパスの東西の地域をつなぐ交流軸を形成する。また、モール沿いにはカフェテリアやホールなど市民が利用できる機能が連なり、交流と賑わいを創出するキャンパスとする計画である。

また、モールやコートに緑化空間を整備する。なお、植栽樹種の選定にあたっては景観に配慮したものとなるように可能な限り検討する。



※配置等は、今後変更する可能性がある。

図 1-3 施設配置図

#### 1.4.3. 緑化計画

対象事業計画地は「仙台市みどりの基本計画 2012-2020」により指定された「仙台都心部緑化重点地区」に含まれており、「百年の杜」シンボルエリア形成プロジェクトに位置づけられる「市街地のみどりの回廊づくり事業」の対象地域である。

対象事業計画地は、仙台都心部緑化重点地区の街路や公園等の拠点に該当はしないが、キャンパス内においてはモールやコートに樹木を配置する計画としており、やすらぎや潤い、景観の快適性にも配慮した快適なキャンパスづくりに可能な限り努める。

## 1.5. 環境の保全及び創造等に係る方針

### 1.5.1. 工事中における方針

工事中における環境の保全及び創造等に係る方針は、以下のとおりとした。

#### (1) 工事における負荷の軽減

工事計画においては、既存建築物の地下階を本事業の地下構造として有効活用することにより、掘削工事を最小限にすることを検討している。これにより、掘削に伴う大気質・騒音・振動及び温室効果ガスの発生の低減、廃コンクリート等の廃棄物発生量の抑制に努める。

#### (2) 解体工事に伴う配慮

本事業では既存建築物の解体を行うため、粉じんの飛散、騒音・振動等への対策方法を検討する。なお、既存建築物には配管の保温材にアスベストの含有箇所があると思われるため、含有している場合は大気汚染防止法及び石綿障害予防規則に基づき適切に調査・除去作業を実施するとともに、解体に伴い発生したアスベストは廃棄物処理法における特別管理産業廃棄物として法令に基づき適切かつ確実に処分する。

#### (3) 作業員への周知・徹底

工事用車両は走行速度を抑制すること、不要なクラクション、アイドリング等を行わないよう作業員に周知・徹底するなど、騒音・振動の影響の低減に努める。

#### (4) 廃棄物への配慮

工事の実施に伴い発生する廃棄物は、対象事業計画地内での再利用の検討や適切な分別により、再資源化に努める。

### 1.5.2. 供用後における方針

本事業では、「杜の都環境プラン」に示されている市街地地域における環境配慮事項を考慮し、供用後における環境の保全及び創造等に係る方針は、以下のとおりとした。

#### (1) 快適なキャンパスづくり

キャンパス内においてはモールやコートに樹木を配置する計画としており、やすらぎや潤い、さらには対象事業計画地が「景観重点区域」に含まれていることを踏まえ建物の色彩など景観の快適性にも配慮した快適なキャンパスづくりに努める。

#### (2) 公共交通利用の促進

学校関係者や本学生は原則として、自動車での通勤・通学をしない計画を検討しており、仙台市地下鉄等公共交通機関の利用を促進することにより、通勤・通学による大気質・騒音・振動及び温室効果ガスの発生の抑制に努める。なお、駐車場は駐車場附置義務条例に基づき約 110 台を計画しており、統合予定の泉キャンパス約 275 台、多賀城キャンパス約 160 台の計約 435 台と比べて約 25%の設置台数に削減することにより環境負荷の低減を図る計画である。

#### (3) 廃棄物発生量の抑制

廃棄物等の分別を行い、ごみの減量化及びリサイクルの促進に努める等の取組を行う方針とする。

#### (4) エネルギー使用量及び温室効果ガス等の抑制

CASBEE（建築環境総合性能評価システム）の活用を検討し、設計段階から建築物の断熱性能の向上などを検討するとともに、設備の導入にあたっては、高効率型・省エネルギー型の照明や機器の採用を検討することとし、エネルギー使用量の低減及び低炭素化に努める。

## 1.6. 事業計画の検討経緯

### 1.6.1. 東北学院大学五橋キャンパス整備計画基本構想等

#### (1) 「東北学院大学総合キャンパス整備基本構想」

東北学院大学のキャンパスは、仙台市青葉区（土樋キャンパス）、仙台市泉区（泉キャンパス）及び多賀城市（多賀城キャンパス）の3箇所に分散しており、総合大学である本学のキャンパスは、できるだけ統合することが教育・研究及び管理運営等の観点からも望ましい。特に最近の少子化に伴う受験生の減少傾向や大学間の競争激化を考えると、現在の3つのキャンパスを仙台市中心部にありアクセスの良いキャンパスを核とした土樋地区にできる限り統合するとともにキャンパスの魅力を高め、本学の競争力を向上させることが喫緊の課題である。しかし、土樋キャンパスは狭隘化しており、施設の拡充や建て替えが困難な状況であるため、土樋キャンパス周辺に新たな土地を確保し、そこに教育・研究施設の建設を検討することが「東北学院大学総合キャンパス整備基本構想」として平成24年度に東北学院理事会で承認された。

#### (2) 「仙台市立病院跡地利活用に係る事業者選定」

「東北学院大学総合キャンパス整備基本構想」をもとに土樋キャンパスに近く広い面積を持つ仙台市立病院跡地購入に向けて準備を進めてきた。平成28年7月に公示された「仙台市立病院跡地利活用に係る事業者選定」に参加し平成28年12月に事業候補者の選定を受けた。その後、平成29年3月に売買契約を行い新キャンパス整備に向けた準備を開始した。

本学の提案は、多くの学生が集う大学キャンパスとしての機能に加え、公開講座の開催等による市民が学ぶ機会を創出するものとしている。また、レストラン等の市民への開放、地域課題の解決に向けた連携拠点の整備等を通じて、市民に開かれたキャンパスとして仙台市の新たな交流拠点となり得るものであり、仙台市の都市ブランドの更なる向上や新たな賑わいの創出に資する点が評価され選定を受けた。

### 1.7. 事業の実施工程計画

本事業の工程は、表 1-2に示すとおりであり、解体工事の着工は平成 30 年度、供用(開校)は平成 35 年度を予定している。

表 1-2 事業工程

年度	平成 29 年度				平成 30 年度				平成 31 年度				平成 32 年度				平成 33 年度				平成 34 年度				平成 35 年度			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
基本計画・基本設計	■																											
実施設計					■																							
環境影響評価	■																											
解体工事									■																			
建築工事													■															
開校準備																					■							
開校																									■			

## 2. 事前調査対象範囲

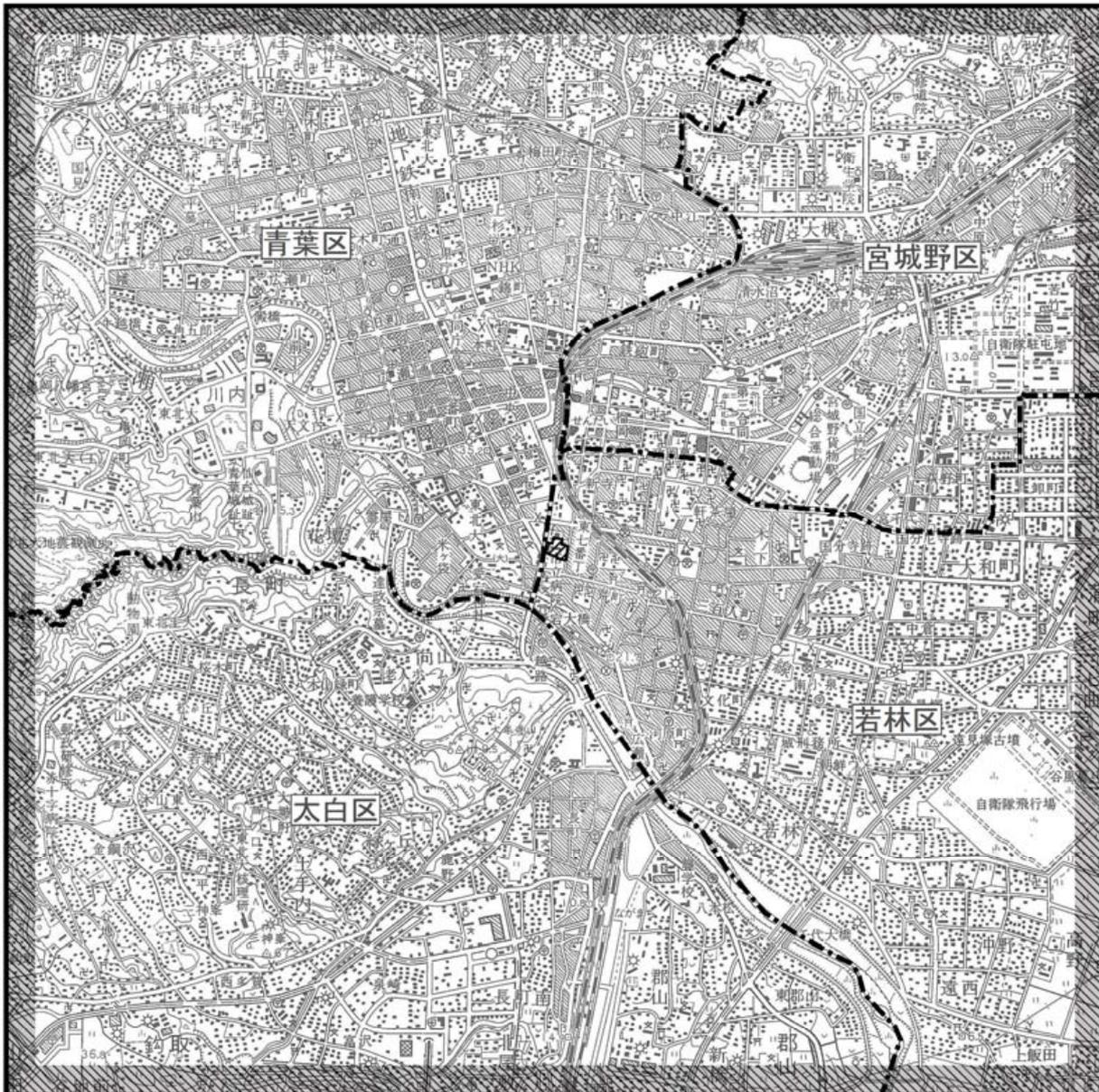


## 2. 事前調査対象範囲

事前調査対象範囲(以下、「調査範囲」とする。)は、事業立地に際して、配慮すべき事項を明らかにするために必要な情報(地域の環境特性)を把握できる範囲とする。

調査範囲は、「仙台市環境影響評価技術指針マニュアル」(平成11年11月仙台市)に示されている概況調査範囲(5～10km)を踏まえ、対象事業計画地から8km四方の範囲とした。

調査範囲は図 2-1に示すとおりである。



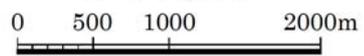
凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 事前調査の対象範囲  
(対象事業計画地を中心とした8km四方の範囲)

図 2-1 事前調査の対象範囲



S=1:50,000



### 3. 事前調査結果



### 3. 事前調査結果

#### 3.1. 水象

調査範囲の主な河川は表 3.1-1、主な湖沼は表 3.1-2、水象の状況は図 3-1に示すとおりである。

対象事業計画地の周辺には、広瀬川等の 1 級河川が 5 河川、梅田川等の 2 級河川が 3 河川、準用河川が 1 河川流れており、新堤溜池などの溜池や沼が存在する。

また、仙台市では、「宮城県公害防止条例」及び「工業用水法」に基づき地下水採取規制を行っているが、対象事業計画地は地下水採取規制の指定地域に含まれていない。

表 3.1-1 調査範囲の主な河川

指定	河川名	総延長 (m)
1 級河川	広瀬川	40,035 (3,900)
	笹川	6,200 (2,500)
	旧笹川	5,150
	木流堀川	1,320
	後田川	2,200
2 級河川	梅田川	13,035
	藤川	1,500
	高野川	3,900
準用河川	谷地堀	890

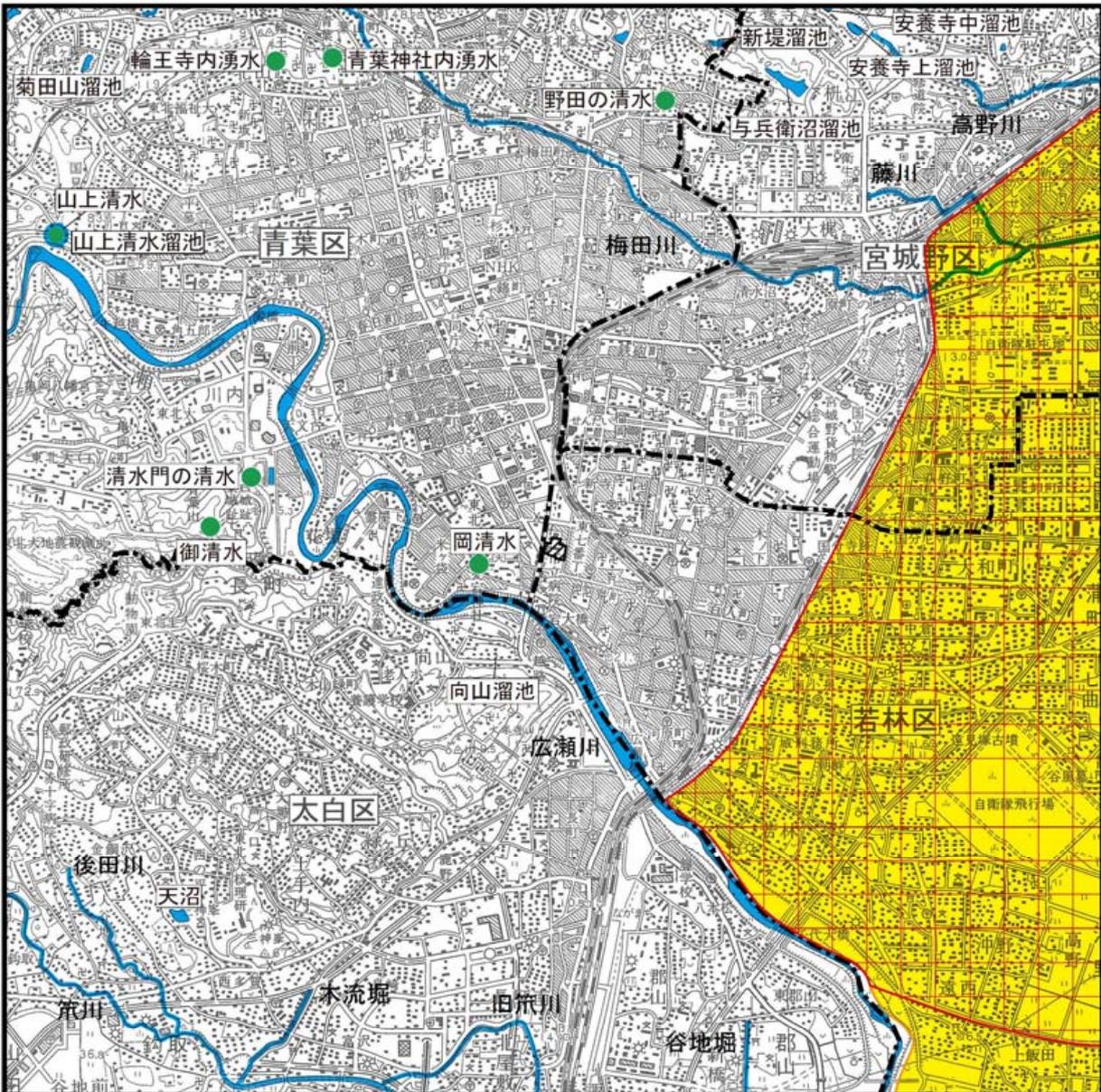
注) ( ) 内は国直轄区間を示す。

出典：「平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 28 年 3 月, 仙台市)

表 3.1-2 調査範囲の主な湖沼

名称	所在地
新堤溜池	青葉区小松島新堤 25-1
山上清水溜池	青葉区八幡 5 丁目 67
菊田山溜池	—
安養寺中溜池	宮城野区安養寺 2 丁目 7-1
安養寺上溜池	宮城野区安養寺 2 丁目 4-1
与兵衛沼溜池	宮城野区蟹沢 15
向山溜池	太白区向山 4 丁目 86-2
天沼	太白区三神峯 2 丁目

出典：「平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 28 年 3 月, 仙台市)



凡例

- : 対象事業計画地

: 区境界線

: 河川・湖沼

: 湧水地点(現存)
- : 宮城県公害防止条例に基づく地下水採取規制地域

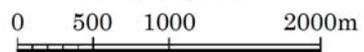
: 工業用水法に基づく指定地域

出典:「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成28年3月、仙台市)  
「地下水採取規制地域の指定」(平成7年10月1日 宮城県告示第1045号)  
「工業用水法施行令」(昭和32年6月10日 政令第142号)

図 3-1 調査範囲の水象の状況



S=1:50,000



## ア. 水源地

仙台市における上水は、釜房ダム、七北田ダム、宮床ダム等のダム水、滝原水源、野尻水源等の水源から取水しているが、調査範囲にはこれらの水源はない。

調査範囲では、広瀬川、梅田川及び笹川に農業用の堰や揚水機が設置されている。施設の概要は表 3-3 に、位置図は図 3-2に示すとおりである。

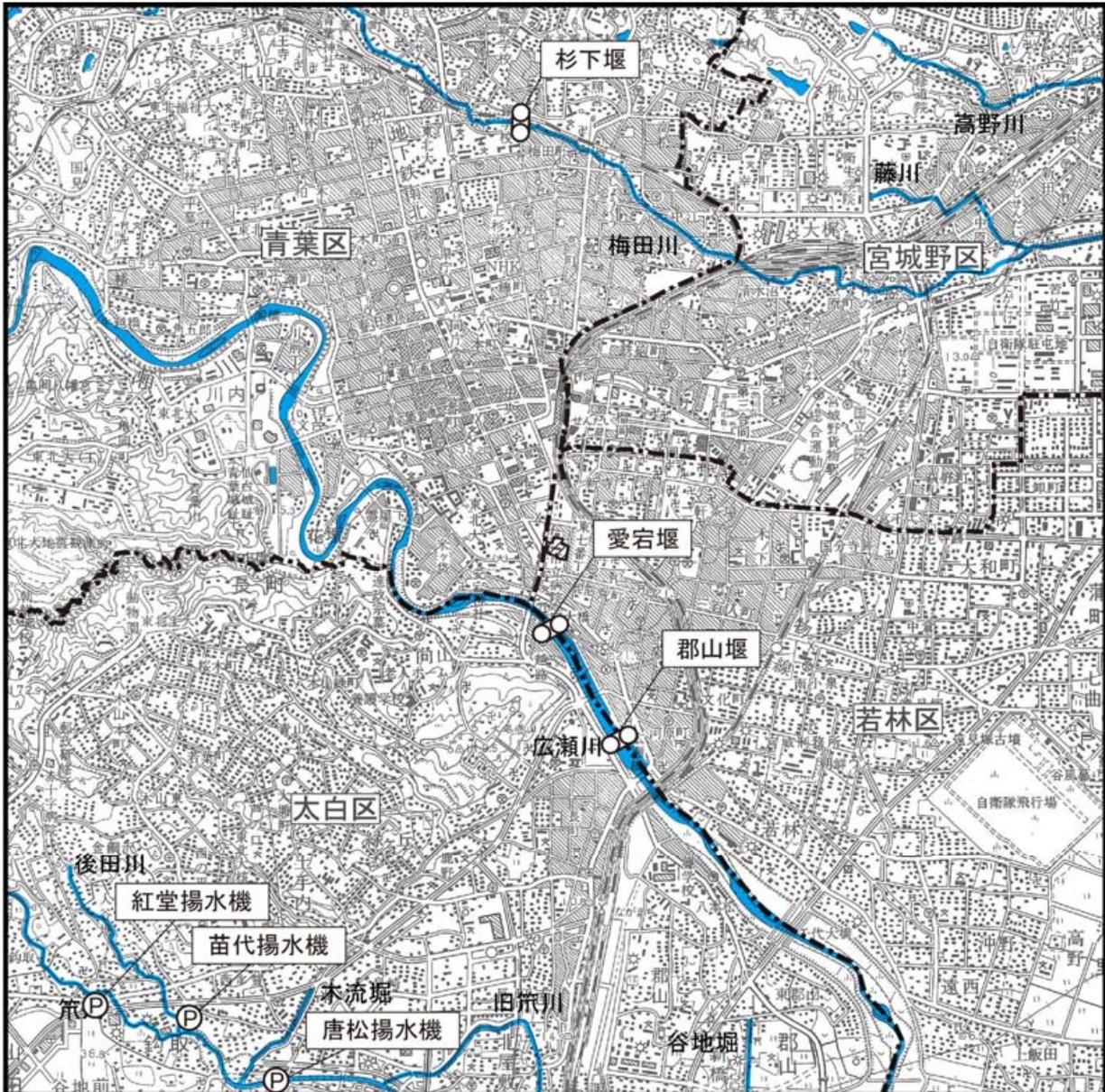
「農業用水施設台帳(河川取水施設)改訂五版」(平成 20 年 3 月 宮城県)によると、広瀬川には愛宕堰及び郡山堰、梅田川には杉下堰、笹川には唐松揚水機、苗代揚水機及び紅堂揚水機がある。最も取水量の多い愛宕堰では、普通期で 6.0450m<sup>3</sup>/秒、代掻き期で 7.4250m<sup>3</sup>/秒を取水している。

表 3-3 農業用水取水施設の概要

河川名	施設名	所在地	取水量(m <sup>3</sup> /秒)		施設所有者	施設管理者
			普通期	代掻き期		
広瀬川	愛宕堰	仙台市若林区土樋	6.0450	7.4250	仙台市	仙台東土地改良区
	郡山堰	仙台市青葉区根岸	0.1800	0.1610	仙台市	郡山水利組合
梅田川	杉下堰	仙台市青葉区梅田町	0.2000	0.2000	四ッ谷堰協会	四ッ谷堰協会
笹川	唐松揚水機	仙台市太白区富沢字上野東	0.0110 <sup>**</sup>	0.0110 <sup>**</sup>	仙台市	苗代堰水利組合
	苗代揚水機	仙台市太白区富田字八幡東	0.0150 <sup>**</sup>	0.0100 <sup>**</sup>	富田生産組合	富田生産組合
	紅堂揚水機	仙台市青葉区鉤取字町	0.1000 <sup>**</sup>	0.1000 <sup>**</sup>	紅堂水利組合	紅堂水利組合

※) 農計資料書からの転記や、推定値(代掻き期：1.5m<sup>3</sup>/s/300ha、普通期：1.0m<sup>3</sup>/s/300ha)を表す。

出典：「農業用水施設台帳(河川取水施設)改訂五版」(平成 20 年 3 月、宮城県農林水産部農村振興課)

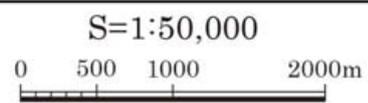


凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 河川・湖沼
-  : 堰
-  : 揚水機場

出典:「農業用水施設台帳(河川取水施設)改定五版」(平成20年3月 宮城県農林水産部農村振興課)  
 宮城県HP「農業用水河川取水施設図」(更新:平成24年9月)  
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/totikaikisodayou.html>

図 3-2 河川取水施設図



## イ. 湧水

調査範囲の湧水は、表 3-4及び図 3-1に示すとおり、山上清水、野田の清水、青葉神社内湧水等がある。

表 3-4 調査範囲における湧水地点

名称	所在地	概要
山上清水	青葉区八幡5丁目	仙台で三清水に挙げられていた。昔は付近の民家等で使用されていたが、現在は使用されていない。
野田の清水	青葉区高松2丁目	万寿寺境内に保存されている。伊達家のせん茶用として使用されていたとされる。かつては、飲料水や生活用水として使用されていた。現在も井戸として存在し、水量は安定している。震災※の前後で特に変化はない。
青葉神社内湧水	青葉区青葉町	元々は沢があり、後に神社の参道石段ができたもので、湧水は石段の上り口1~3段目位の所からみられ、年中濡れている。震災※の前後で特に変化はない。
輪王寺内湧水	青葉区北山1丁目	輪王寺の墓地内のわずかな所に水がしみ出す箇所があるが、雨量に左右され、雨の少ない時期には、しみ出しを確認できない時もある。
御清水	青葉区川内東北大学附属植物園	仙臺城の重要だった湧水で、東北大学植物園内、大深沢の上流の海拔120mの所にある。この水は、本丸の貯水槽に引いて水掘りや飲料水として利用し、余った水は谷沿いに流して、中嶋池に注ぐように工夫されていた。この池の余り水は、外堀の長沼や首洗池にも流れ込むようになっており、長沼からしみ込んだ水は、三の丸周辺の武家屋敷の井戸水として、広く利用されていた。水量は安定しており、震災※の前後で特に変化はない。
清水門の清水	青葉区川内	仙台市博物館の裏手にあるこけむした石垣は、仙臺城、三の丸への入り口のひとつ、清水門の名残り。この脇には、仙臺藩御用酒づくりに使われた清水が今も湧いている。
岡清水	—	民家宅地内にあり、斜面の古い井戸状のものがある所に湧水源がある。

※) 震災とは、平成23年3月11日発生の東北地方太平洋沖地震による地震動、広域地盤沈下、津波等による被害を指す。

出典：「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成28年3月、仙台市)

## ウ. 自然性の高い水辺地

調査範囲における自然性の高い水辺地としては、図 3-10(植生自然度)に示すヨシクラス等の植生自然度の高い植生が見られる広瀬川や竜ノ口溪谷及び青葉山、図 3-5(注目すべき地形・地質)に示す青葉山丘陵と竜ノ口溪谷及びその下流部や広瀬川(牛越橋上流~愛宕橋間)、図 3-13(景観資源)に示す仙台市霊屋広瀬川面等を有する広瀬川及び竜ノ口溪谷があげられる。

## エ. その他事業の立地上配慮を要する水象

その他、事業の立地上特に配慮を要する水象はない。

### 3.2. 地形・地質

#### ア. 地形

調査範囲の地形の状況は、図 3-3に示すとおりである。

仙台市の地形は、西部の奥羽山脈東麓に沿って広がる陸前丘陵，中央部を西から東に流下する七北田川，広瀬川，名取川の各河川沿いに発達する河岸段丘，東部の仙台湾に沿って広がる沖積平野に大別され，西側から東側に移行するにつれて標高が低くなっている。

調査範囲の地形は，青葉山丘陵，広瀬川台地，宮城野海岸平野が接する地域であり，対象事業計画地は南側を広瀬川が流れる砂礫台地に位置している。

#### イ. 地質

調査範囲の地質の状況は，図 3-4に示すとおりである。

仙台市の地質は，西部の丘陵部を中心に火成岩や砂岩及びシルト岩等からなる新第三系，中央部から東部にかけて河岸段丘堆積物や沖積層等からなる第四系が分布している。

調査範囲の地質は，広瀬川左岸を中心に礫層・砂層及び粘土層からなる河岸段丘堆積物が広く分布している。広瀬川の右岸には，表層のローム層と下位の砂礫層からなる青葉山層のほか，シルト岩・砂岩・凝灰岩等からなる向山層，竜の口層等が分布している。

対象事業計画地は河岸段丘堆積物(礫層・砂層及び粘土層)に位置している。

#### ウ. 注目すべき地形・地質

調査範囲における注目すべき地形・地質は，表 3-5及び図 3-5に示すとおりである。

このうち，学術上重要な地形・地質としては，丘陵地形・峡谷・風隙の典型例で学術上重要，かつ動植物の重要な生息・生育地である「青葉山丘陵と竜ノ口溪谷及びその下流部」が，化石産地として「霊屋下セコイヤ類化石林」があげられる。

また，典型地形としては，活断層地形である「長町ー利府線」，「大年寺山」，「鹿落坂」，河川的作用による地形である「虚空蔵淵」，「古竜ノ口川」，「広瀬川(牛越橋上流～愛宕橋間)」が，その他の地形として「竜ノ口溪谷ー虚空蔵淵」があげられる。

表 3-5 注目すべき地形及び地質

No.	名称	選定理由*			概要
		I	II	III	
①	青葉山丘陵と竜ノ口溪谷及びその下流部		○		丘陵地形・峡谷・風隙の典型例で学術上重要，かつ動植物の重要な生息・生育地
②	霊屋下セコイヤ類化石林		○		化石産地
③	長町ー利府線		○	○	活断層地形
④	大年寺山		○	○	活断層地形
⑤	鹿落坂		○	○	活断層地形
⑥	虚空蔵淵		○	○	ナメ・淵
⑦	古竜ノ口川		○	○	風隙
⑧	広瀬川(牛越橋上流～愛宕橋間)		○	○	瀬・淵の繰り返し
⑨	竜ノ口溪谷ー虚空蔵淵			○	地層等の見える大露頭
	計	0	8	7	

注) 表中の No.は図 3-5の番号に対応する。

※ 選定理由は以下のとおり

I：「日本の地形レッドデータブック第2集」(平成14年，日本の地形レッドデータブック作成委員会に記載されている地形)

II：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月，仙台市)に掲載されている地形

III：「日本の典型地形 都道府県別一覧」(平成11年4月，国土地理院)に掲載されている地形

## エ. 大規模な造成を要する斜面地等

図 3-3に示す地形の状況のとおり、対象事業計画地の南西部の大年寺山地区、北部の柊江地区等に急斜面が位置している。

## オ. 災害の危険箇所

調査範囲における災害の危険箇所は、図 3-6に示すとおりであり、「砂防法」、「地すべり等防止法」及び「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づき指定された区域や、国土交通省の調査・点検要領に基づき、土砂災害の危険性のある箇所を宮城県が抽出した土砂災害危険箇所（土石流危険渓流・区域、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所）、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づき指定された区域が分布している。

また、対象事業計画地の東側から南側には「長町一利府線」、「大年寺山」、「鹿落坂」等の活断層が分布している。

地盤沈下が生じやすい軟弱層は、調査範囲の一部において2~6mの厚さで分布している。

## カ. 既往災害履歴

調査範囲において近年発生した災害は、昭和53年の宮城県沖地震や平成15年の宮城県北部を震源とする地震、平成17年の宮城県沖を震源とする地震などがある。対象事業計画地の位置する仙台市内では、昭和53年の宮城県沖地震で震度5、平成17年の宮城県沖を震源とする地震で震度5強を観測している。

平成23年3月11日には「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」が発生した。この地震は三陸沖を震源とするマグニチュード9.0という巨大地震で、対象事業計画地の位置する仙台市内をはじめ、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度6強など広い範囲で強い揺れを観測した。また、太平洋沿岸を中心に高い津波を観測し、特に東北地方から関東地方の太平洋沿岸では大きな被害があった。

## キ. 土壌汚染の状況

調査範囲においては、平成23年度~平成27年度に表3-6及び図3-7に示す3地点で土壌のダイオキシン類調査が行われており、全ての地点で環境基準を満たしている。なお、平成23年度及び平成26年度は、調査範囲内で土壌のダイオキシン類調査が行われていない。

仙台市における平成27年度の土壌汚染対策法に基づく要措置区域、形質変更時要届出区域の指定件数は、どちらも1件であった。また、法第3条に係る有害物質使用特定施設の廃止件数は25件、廃止された敷地内における汚染状況の調査結果の報告件数は10件、法第14条に係る土地所有者等による区域指定の申請件数は1件あった。なお、対象事業計画地周辺では土壌汚染は報告されていない。

「公害関係資料集(平成27年度測定結果)」(仙台市環境局)によると、平成27年度における土壌汚染に関する苦情件数は0件である。

表 3-6 土壌のダイオキシン類調査結果(平成23年度~平成27年度)

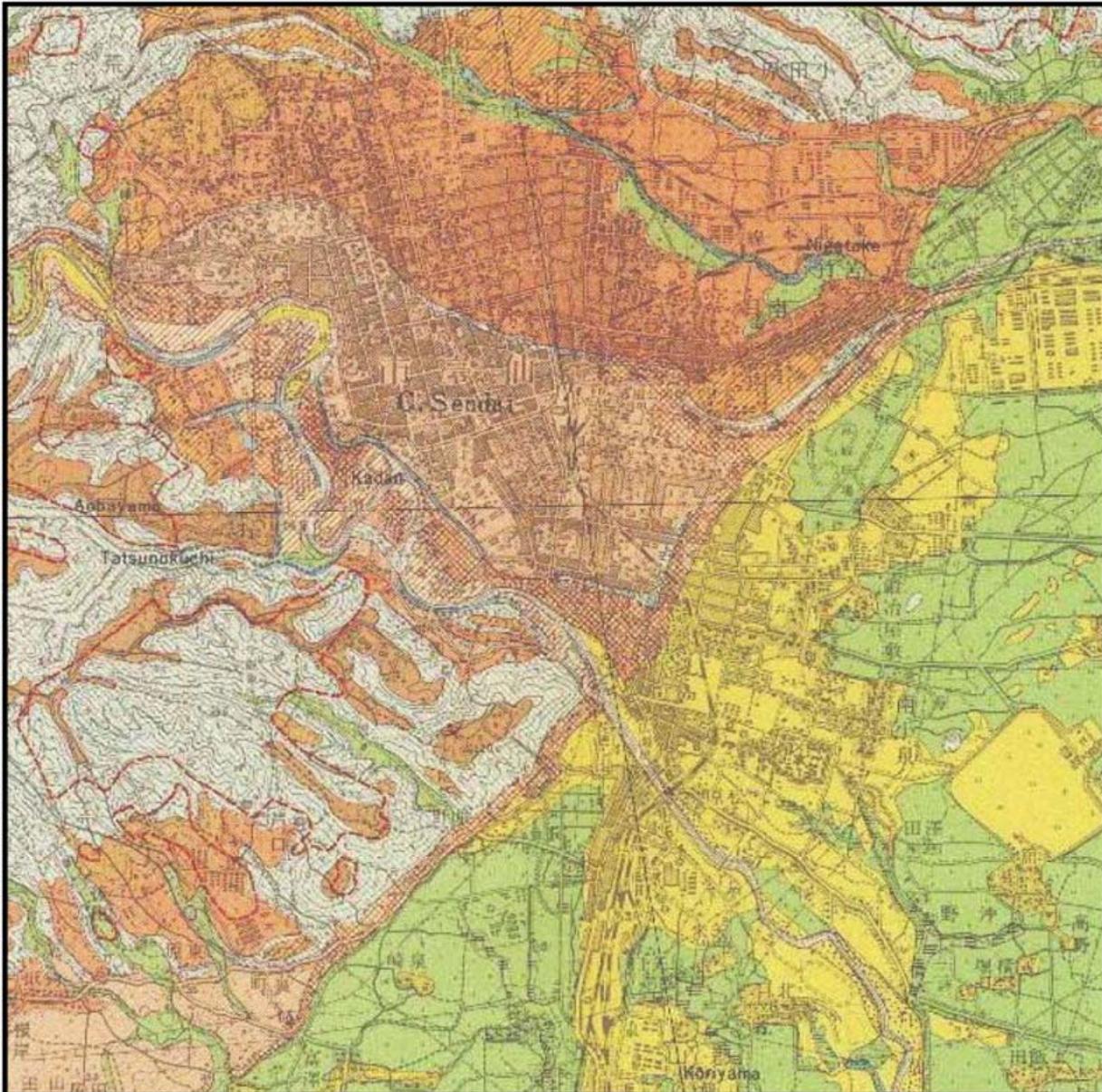
No.	調査年月日	地点所在地	調査地点名称	測定結果 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
1	平成24年11月27日	青葉区	八幡小学校	0.015	1,000
2	平成25年8月30日	太白区	西多賀小学校	3.4	
3	平成27年8月20日	太白区	八木山小学校	0.0078	

注) 表中のNo.は図3-7の番号に対応する。

出典: 「公害関係資料集(平成23年度~平成27年度測定結果)」(仙台市環境局)

## ク. その他事業の立地上配慮を要する地形・地質

その他、事業の立地上特に配慮を要する地形・地質はない。



凡例

 : 対象事業計画地

 : 区境界線

〔丘陵地〕

 : 丘頂緩斜面及び丘腹緩斜面

 : 丘麓緩斜面

 : 急斜面 (谷密度80以上)

 : 急斜面 (谷密度80未満)

〔砂礫台地〕

 : 上位段丘面(Gt I)

 : 中位段丘面(Gt II<sup>\*</sup>)

 : 中位段丘面(Gt II)

 : 下位段丘面(Gt III<sup>\*</sup>)

 : 下位段丘面(Gt III)

〔低地〕

 : 谷底平野

 : 自然堤防及び砂堆・浜堤

 : 海岸平野

 : 河原および浜

 : 砂丘

〔その他〕

 : 湿地

 : 地すべり地形

 : 崖

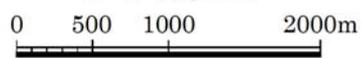
 : 人工平坦地界

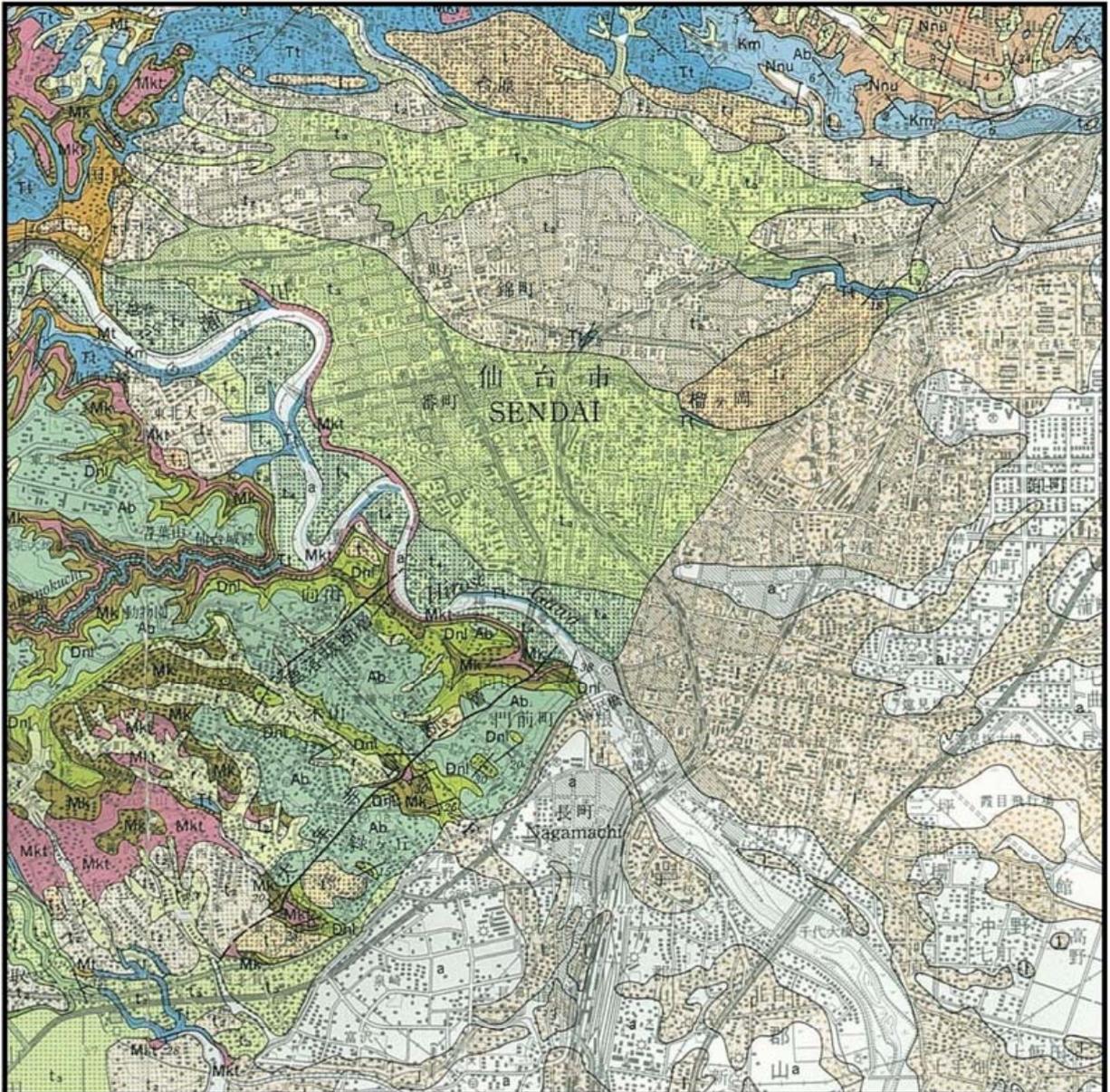
出典:「土地分類基本調査 地形分類図(仙台)」(昭和42年3月, 経済企画庁)

図 3-3 地形分類図



S=1:50,000





凡例

: 対象事業計画地

: 区境界線

埋谷土  
 : 土砂

沖積層  
 : 砂及び粘土  
 : 砂

河岸段丘堆積物  
 : 礫層・砂層  
 : 及び粘土層

青葉山層

: 礫層・砂層及び粘土層

大年寺層  
 : 砂岩・礫岩及びシルト岩

向山層  
 : 軽石凝灰岩  
及び細粒凝灰岩  
 : 砂岩・シルト岩  
垂炭・凝灰岩及び礫岩

龍の口層  
 : シルト岩・砂質シルト岩  
凝灰岩及び砂岩

亀岡層  
 : 砂岩・凝灰岩・シルト岩  
垂炭及び礫岩又は礫混じり砂岩

三滝層  
 : 安山岩質・玄武岩質溶岩  
火山角礫岩及び凝灰角礫岩

梨野層

: 異地性ブロックを含む  
軽石凝灰岩・砂質凝灰岩及び砂岩

七北田層  
 : 砂岩(凝灰岩薄層を挟む)  
 : 砂岩・軽石凝灰岩及び礫岩

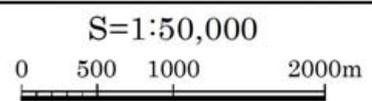
綱木層  
 : 軽石凝灰岩・火山礫凝灰岩  
砂岩・礫岩及び凝灰角礫岩

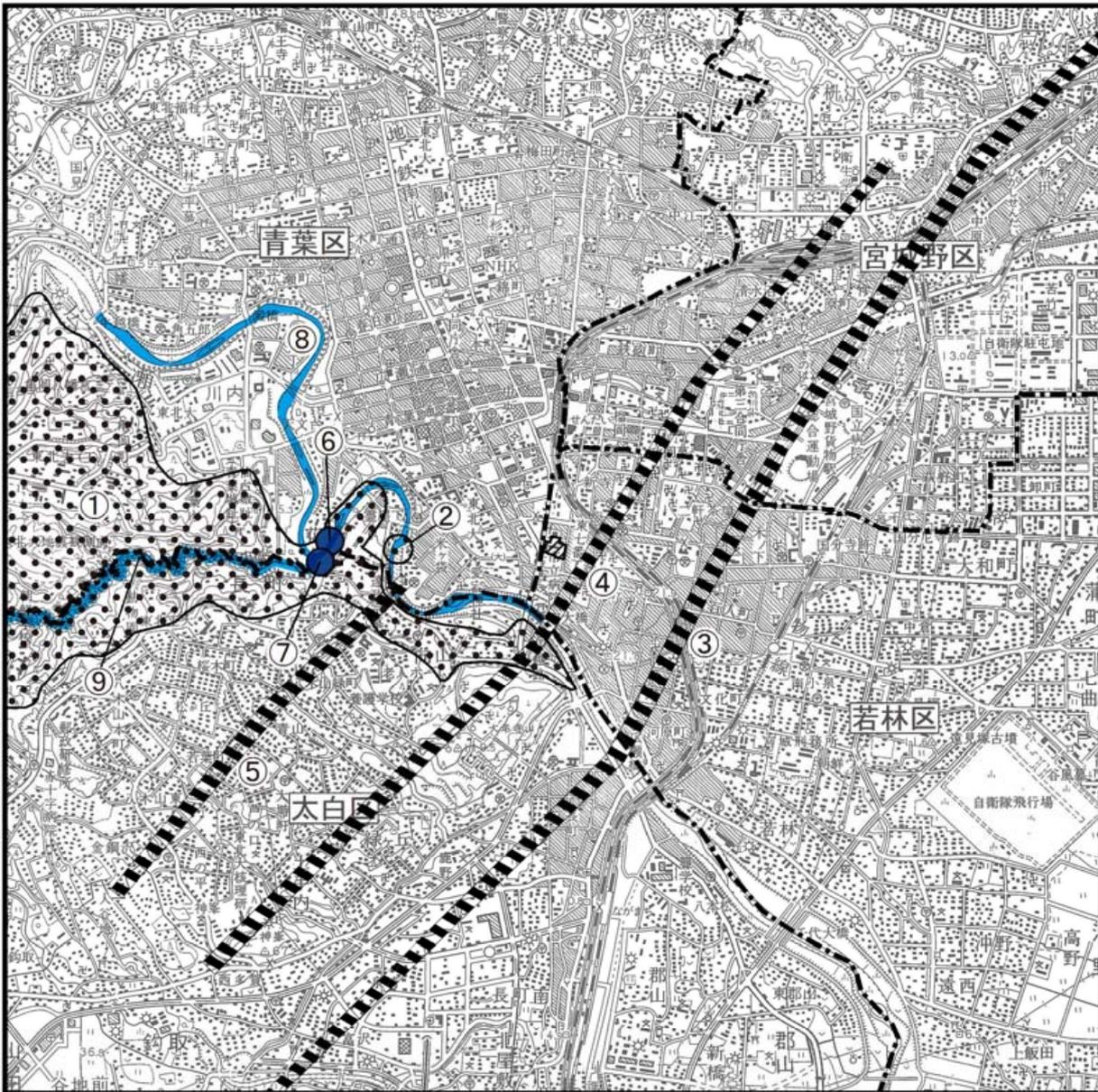
茂庭層  
 : 礫岩・礫混じり砂岩  
及び砂岩

高館層  
 : 火山角礫岩・凝灰角礫岩  
及び軽石凝灰岩  
 : 安山岩溶岩及び玄武岩溶岩

出典:「5万分の1地質図幅(仙台)」(昭和61年3月, 地質調査所)

図 3-4 地質図





凡例

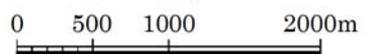
-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 注目すべき地形・地質①～⑨
- 

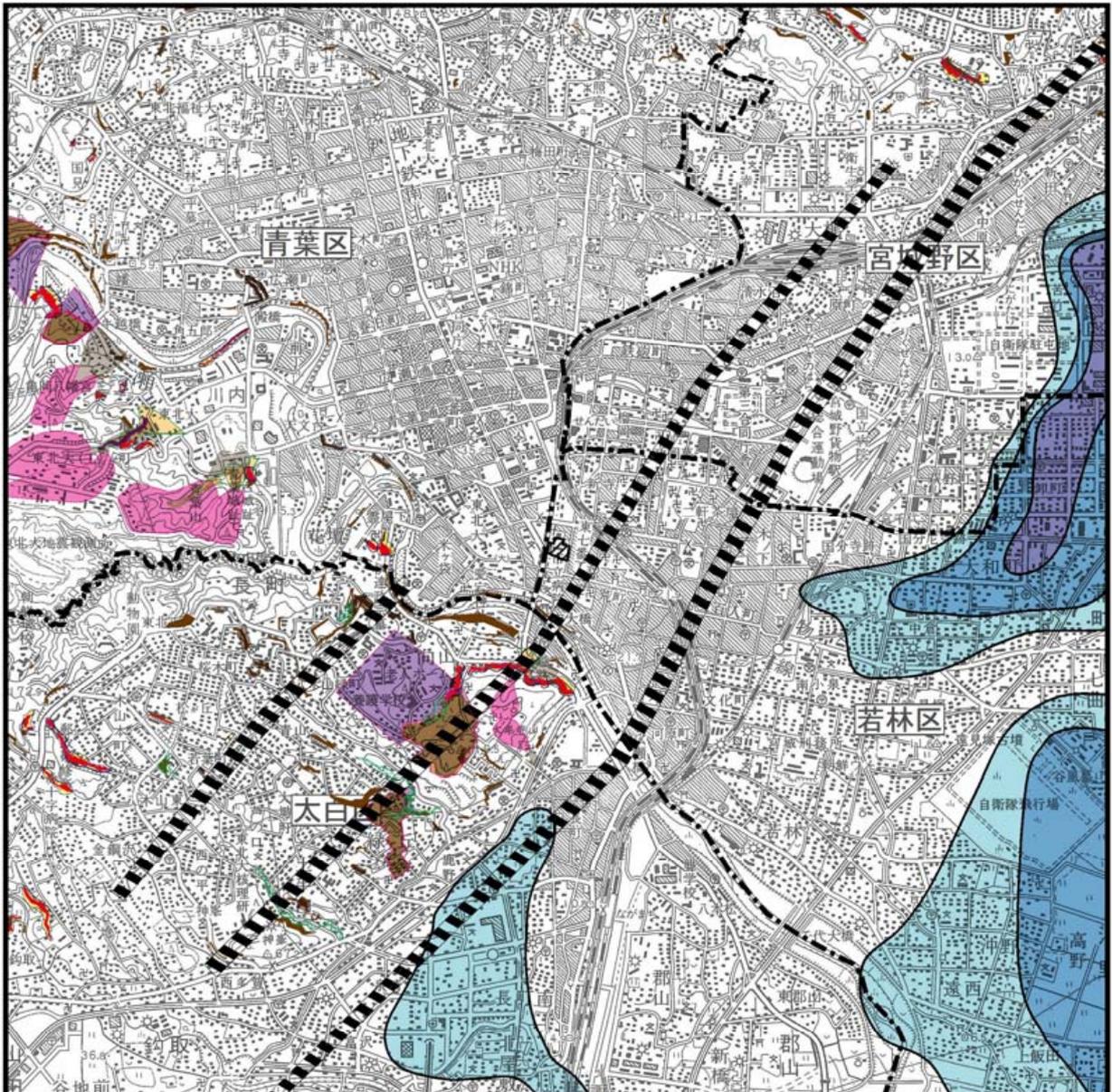
出典:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月, 仙台市)  
 国土地理院HP「日本の典型地形 都道府県別一覧」(閲覧:平成29年3月)  
[http://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei\\_top.html](http://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei_top.html)

図 3-5 注目すべき地形・地質



S=1:50,000





凡例

: 対象事業計画地

: 区境界線

土砂災害危険箇所

: 土石流危険渓流

: 土石流危険区域

: 地すべり危険箇所

: 移動土塊の到達範囲

: 急傾斜地崩壊危険箇所

土砂三法指定区域

: 砂防指定地

: 地すべり防止区域

: 急傾斜地崩壊危険区域

土砂災害警戒区域等

: 警戒区域(急傾斜地の崩壊)

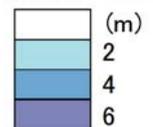
: 特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)

: 警戒区域(土石流)

: 特別警戒区域(土石流)

: 活断層

軟弱層の厚さ



出典:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月, 仙台市)

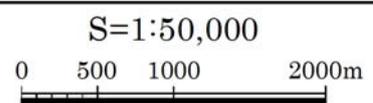
国土地理院HP「日本の典型地形 都道府県別一覧」(閲覧:平成29年3月)

[http://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei\\_top.html](http://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei_top.html)

「仙台市史特別編1自然」(平成6年3月, 仙台市)

「せんだいぐらしのマップ(防災)」(閲覧:平成29年3月)<http://www2.wagmap.jp/sendacity/top/>

図 3-6 災害危険箇所



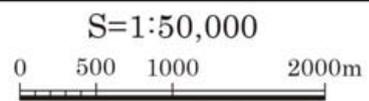


凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 土壌のダイオキシン類調査地点(1~3)

出典:「公害関係資料集(平成23年度~平成27年度測定結果)」(仙台市環境局)

図 3-7 土壌のダイオキシン類調査地点



### 3.3. 植物

#### ア. 注目すべき植物の状況

仙台市は、市域が海岸から奥羽山脈まで広がりを持ち、暖温帯と冷温帯の間に位置する中間地帯と呼ばれる領域が広く占めているという特徴がある。そのため、暖地系及び寒地系の両方の植物がみられ、植物相が多様である。

調査範囲内における注目すべき植物種の状況は、以下に示す 2 つの文献から整理した。具体的には、これら文献に掲載されている種のうち、表 3-7に示す選定基準に該当するものを注目すべき種として整理した。ただし、文献①については、仙台市全域を対象としていることから、地域区分が「市街地地域」とされている減少種(表 3-8参照)、または、種の分布地として調査範囲内の地域(青葉山、広瀬川、大年寺山等)が示されている種を抽出した。

整理した結果は表 3-9に示すとおりであり、調査範囲内における注目すべき種の種数は168種であった。

- ① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)
- ② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)

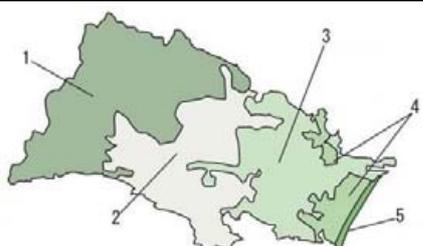
表 3-7 注目すべき種の選定基準

判断基準		番号等	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市において、もともと稀産あるいは希少である種、あるいは分布が限定されている種。	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布限界となる種。	
		3	仙台市が模式産地(タイプロカリティ)となっている種	
		4	1, 2, 3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種(継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など)	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
		A	現在ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。	
		B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。	
		C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。	
	環境指標種	○	本市の各環境分類において良好な環境を指標する種。(ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)	
ふるさと種		○	仙台市に生息・生育する動植物種のうち、仙台のふるさとの自然を代表する種や、市民に親しんで欲しい種。	
レッドデータ等	国 RL 「環境省レッドリスト 2015」(平成 27 年 環境省報道発表資料)掲載種	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR	絶滅危惧ⅠA類	
		EN	絶滅危惧ⅠB類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群	
		県 RDB 「宮城県の希少な野生動物-宮城県レッドデータブック 2016-」(平成 28 年 宮城県)掲載種	EX	絶滅
	EW		野生絶滅	
	CR+EN		絶滅危惧Ⅰ類	
	CR		絶滅危惧ⅠA類	
	EN		絶滅危惧ⅠB類	
	VU		絶滅危惧Ⅱ類	
	NT		準絶滅危惧	
	DD		情報不足	
	LP		絶滅のおそれのある地域個体群	
	天記、種保存法	要	要注目種	
		特天	『文化財保護法』(昭和 25 年法律第 214 号)における特別天然記念物	
		天	『文化財保護法』(昭和 25 年法律第 214 号)における天然記念物	
		国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成 4 年法律第 75 号)における国内希少野生動植物	
		国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成 4 年法律第 75 号)における国際希少野生動植物	

注) 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)による。

表 3-8 減少種の地域区分

番号	地域区分
1	山地地域
2	西部丘陵地・田園地域
3	市街地地域
4	東部田園地域
5	海浜地域(後背の樹林帯も含む)



注) 調査範囲は、大部分が「3 市街地地域」に該当しており、南西側の一部に「2 西部丘陵地・田園地域」が含まれている。

出典: 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020」(平成 23 年 3 月, 仙台市)

表 3-9(1) 注目すべき植物種(1/4)

No.	科名	種名	文献		仙台市重要種区分							学術上重要種	国	RL	県	RDB	天記・種保存法	分布地
					注目種													
					減少種					環境指標種								
					山地	西部丘陵・田園	市街地	東部田園	海浜									
①	②																	
1	トクサ	イヌスギナ	○	○			B		B							東仙台		
2	ゼンマイ	ヤシャゼンマイ	○	○	1	C	C							NT		青葉山		
3	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	○	○	1,2		B	C	C							青葉山		
4		イノモトソウ	○		1,2									NT		萩ヶ丘		
5	チャセンシダ	コタニワタリ	○	○			B									青葉山		
6	オシダ	リョウメンシダ	○	○			B			○						青葉山, 野草園		
7		オシダ	○	○			B									青葉山		
8		オオベニシダ	○	○	1,2											青葉山		
9		イワシロイノデ	○	○			B									青葉山, 大年寺山		
10		サカゲイノデ	○	○			B									青葉山		
11		ジュウモンジシダ	○	○			B			○						青葉山		
12	ヒメシダ	ヒメワラビ	○	○	2		B	B	B							青葉山		
13	メシダ	ホソバイヌワラビ	○				C							NT		青葉山		
14		ヤリノホシケシダ	○		1									NT		東北大学付属植物園		
15		イヌガンソク	○	○			C		C							青葉山, 茂ヶ崎		
16		クサソテツ	○	○			B		C		○					青葉山, 野草園, 長町		
17	サンショウモ	サンショウモ	○	○	1	EX	EX	EX	EX	EX			VU	NT		青葉区台原(最終確認1923) 太白区長町(最終確認1923)		
18	マツ	モミ	○	○			C			○	○					青葉山		
19	イチイ	カヤ	○	○			B									青葉山		
20	クルミ	オニグルミ	○	○			B	B	B	○						青葉山		
21	ヤナギ	ネコヤナギ	○	○	4		C	C		○						青葉山, 評定河原, 長町, 富田		
22		キツネヤナギ	○	○			C			○						青葉山, 長町遊路, 大年寺山		
23	カバノキ	ハンノキ	○	○	1,4		C		B	C	○					青葉山, 宮沢橋下流		
24		ウダイカンバ	○	○	4	C	C									金剛沢市有林		
25		サワシバ	○	○		C	B			○						青葉山		
26		アカシデ	○	○		C	B			○						青葉山, 野草園		
27		イヌシデ	○	○	4	C	B			C	○					青葉山, 大年寺山		
28	ブナ	ブナ	○	○	4	C	B				○					青葉山		
29		イヌブナ	○	○	1,4		B			○						青葉山, 野草園, 大年寺山		
30		アカガシ	○	○	2	C	C	C	C	○						青葉山, 野草園, 大年寺山		
31		アラカシ	○	○	1,2		C							要		亀岡		
32		ミズナラ	○	○		C	B									青葉山, 野草園, 大年寺山		
33		シラカシ	○	○	2		C	C	C	○						青葉山, 野草園, 大年寺山		
34		ウラジロガシ	○	○	2		C	C	C							青葉山		
35	ニレ	エノキ	○	○	4		B	B	B							青葉山, 二ツ沢, 西多賀		
36		ケヤキ	○	○		C	C	B	B	○	○					牛越橋上流		
37	イラクサ	マルバヤブマオ	○		1		B							VU		青葉山		
38		トキホコリ	○		1		B	B					VU	VU		花京院, 上杉, 広瀬川中河原緑地		
39	タデ	イヌタデ	○	○						○						広瀬川中河原緑地, 大年寺山		
40		ミゾソバ	○	○			C	B	C	○						青葉山, 野草園, 大年寺山		
41		ノダイオウ	○	○	1,4		C		C				VU	要		花壇		
42	ザクロソウ	ザクロソウ	○		1											青葉山, 若林, 鉤取		
43	クスノキ	ヤマコウバシ	○		1,2		B									青葉山		
44		シロダモ	○	○	2					○						野草園, 向山, 富田		
45	キンボウゲ	ニリンソウ	○	○			B		B	○						野草園, 八木山香澄町		
46		キクザキイチゲ	○	○		C	B		B	○						八木山香澄町		

注 1) 仙台市重要種区分, 国RL, 県RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準(示す番号・記号等)に該当する。

2) 種名は「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。

3) 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月, 仙台市)
- ② 「広瀬川流域の自然環境」(平成6年3月, 仙台市環境局環境計画課)

4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。

5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-9(2) 注目すべき植物種 (2/4)

No.	科名	種名	文献		仙台市重要種区分							国	県	天記・種保存法	分布地
					注目種										
			①	②	学術上重要種	減少種					環境指標種				
						山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
47	キンボウゲ	カザグルマ	○	○	1		B		B			NT	VU	青葉山	
48	スイレン	オニバス	○		1	EX	EX	EX	EX	EX		VU	EX		
49	マツモ	マツモ	○		1				A					青葉区小松島 (1931年の採集地)	
50	ウマノスズクサ	トウゴクサイシン	○				B			○				青葉山	
51	ツバキ	ヤブツバキ	○	○			B	B	B	B	○			青葉山	
52	アブラナ	ナズナ	○	○			B	B	B		○			青葉山, 大年寺山	
53	ユキノシタ	トリアシショウマ	○	○		C	B		B					青葉山, 大年寺山	
54		コガネネコノメソウ	○	○	1,2									野草園	
55		ユキノシタ	○	○			B	B						大年寺山, 青葉山	
56	バラ	ザイフリボク	○	○	1		B							青葉山	
57		ヤマブキ	○	○			C			○				八木山香澄町	
58		カスミザクラ	○	○			C			○				青葉山, 野草園, 三神峯公園	
59		カシイチゴ	○	○	1,2				C	C				与兵衛沼公園	
60	マメ	ツクシハギ	○	○			B		B	○				青葉山, 与兵衛沼公園, 大年寺山, 三神峯	
61		マキエハギ	○		1							NT		青葉山, 三神峯	
62		タヌキマメ	○			EX	EX	EX	EX	EX		CR+EN			
63	ユズリハ	ユズリハ	○	○	1,2		C		C	C				青葉山	
64	ミカン	ミヤマシキミ	○		1		C			C				青葉山	
65	カエデ	ハウチワカエデ	○	○			C							青葉山, 大年寺山	
66		イタヤカエデ	○				C							青葉山, 野草園, 大年寺山	
67		メグスリノキ	○	○	1		B							青葉山	
68		ヤマモミジ	○	○			B			○				青葉山, 野草園	
69		ウリハダカエデ	○	○			C							青葉山, 大年寺山	
70	トチノキ	トチノキ	○	○		C	C							青葉山	
71	モチノキ	イヌツゲ	○	○			C			C				青葉山	
72		ソヨゴ	○	○	1,2		C					NT		青葉山	
73	スマレ	フモトスマレ	○	○	1		B					VU		青葉山	
74		ナガハシスマレ	○	○	1		B		B					青葉山	
75	ミツハギ	ミズマツバ	○	○	1							VU	VU	郡山	
76	ヒシ	ヒシ	○				B		B	○				青葉山	
77	アカバナ	ヤナギラン	○				A					CR+EN		青葉山	
78	ミズキ	アオキ	○	○			C	C	C	C	○			青葉山, 富沢公園, 野草園	
79	ウコギ	コシアブラ	○	○		C	C							青葉山, 大年寺山, 野草園	
80	セリ	ハナウド	○				C		C			NT		川内	
81	イワウメ	コイワウチワ	○	○	1,4	C	C			○				青葉山	
82	ツツジ	ヤマツツジ	○	○			C	C		C	○			青葉山	
83		シロヤシオ	○	○		C	C			○				青葉山	
84		トウゴクミツバツツジ	○	○	2		B							青葉山	
85		ナツハゼ	○	○			C							青葉山, 大年寺山	
86	ヤブコウジ	ヤブコウジ	○	○						○				与兵衛沼公園	
87	サクラソウ	クリンソウ	○	○	1	B	B					VU		青葉山	
88		サクラソウ	○	○	1		A			○	NT	CR+EN		青葉山	
89	モクセイ	イボタノキ	○	○			B			○				大年寺山	

注 1) 仙台市重要種区分, 国 RL, 県 RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。

- 2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。
- 3) 表中の文献は以下のとおりである。
  - ① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)
  - ② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)
- 4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。
- 5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-9(3) 注目すべき植物種(3/4)

No.	科名	種名	文献		仙台市重要種区分							学術上重要種	環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存法	分布地
					注目種												
					減少種												
					①	②	山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜						
90	ガガイモ	タチガシワ	○	○	1											野草園	
91	ムラサキ	ルリソウ	○	○			C							NT		青葉山	
92	クマツヅラ	クマツヅラ	○				B							VU		大年寺山	
93	ゴマノハグサ	オオアブノメ	○		1				B					VU	要	郡山笹川	
94		サギゴケ	○	○			C		C		○					大年寺山	
95		イヌノフグリ	○		1			B						VU	VU		
96		カワヂシャ	○		1			B	B					NT	NT	大野田, 新田	
97	ハマウツボ	オオナンバンギセル	○		1	B	B									青葉山	
98	タヌキモ	タヌキモ	○		1									NT	CR+EN	長町	
99		フサタヌキモ	○			EX	EX	EX	EX	EX				EN	EX		
100		ムラサキミミカキグサ	○	○	1		A		A					NT	NT	青葉山	
101	オオバコ	オオバコ	○	○							○					野草園, 大年寺山	
102	レンブクソウ	レンブクソウ	○	○	1										NT	青葉山	
103	オミナエシ	オミナエシ	○	○			B		B		○					八幡	
104	マツムシソウ	マツムシソウ	○		1	A	A									八幡	
105	キキョウ	キキョウ	○	○	1		B				○			VU	VU	青葉山	
106	キク	オクモミジハグマ	○	○			C				○					大年寺山	
107		キッコウハグマ	○	○			B				○					青葉山, 国見, 野草園, 大年寺山	
108		オケラ	○	○			B				○					青葉山, 八幡	
109		アワコガネギク	○	○			C							NT		八幡	
110		フジバカマ	○				C	C						NT		青葉山	
111		ノニガナ	○					C							NT	長町	
112		カワラニガナ	○					B						NT	VU		
113		オオニガナ	○	○	1		C								NT	北山(現在は消失)	
114		シュウブソウ	○		1,2											金剛沢市有林	
115		ミヤコアザミ	○		1		A								CR+EN	大年寺山	
116		アキノキリンソウ	○	○			C				○					大年寺山	
117		アオヤギバナ	○					B							VU		
118		エゾタンポポ	○	○			C	B	B	C	○	○				青葉山, 古城, 野草園, 大年寺山	
119		オナモミ	○				B							VU	VU	青葉山・大年寺山	
120	ユリ	ヤマラッキョウ	○					B							VU		
121		カタクリ	○	○			B	B	B		○					青葉山	
122		ショウジョウバカマ	○	○			B				○					青葉山, 野草園, 八木山	
123		ニッコウキスゲ(ゼンテイカ)	○	○			B	B	B								
124		コオニユリ	○	○			B		B	B						台原(造成により消滅)	
125		ヒメヤブラン	○	○			C				○					青葉山	
126		オオバジャノヒゲ	○	○			B			C						青葉山, 野草園, 大年寺山	
127		マルバサンキライ	○				A								CR+EN	大年寺山	
128	キンバイザサ	コキンバイザサ	○		1,2	EX	EX	EX	EX	EX					EX	台原に分布していたが宅地造成により絶滅	
129	アヤメ	ヒメシャガ	○	○			B	B			○			NT	NT	青葉山	
130	ツユクサ	ヤブミョウガ	○				A								CR+EN	釣取	
131	イネ	ヒナザサ	○				B	B						NT	VU	青葉区荒巻	

注 1) 仙台市重要種区分, 国 RL, 県 RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。

2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。

3) 表中の文献は以下のとおりである。

① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)

4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。

5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-9(4) 注目すべき植物種(4/4)

No.	科名	種名	文献		仙台市重要種区分							学術上重要種	国	RL	県	RDB	天記・種保存法	分布地
					注目種													
			①	②	減少種					環境指標種								
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜									
132	イネ	メヒシバ	○	○						○							大年寺山, JR長町駅東側	
133		カゼクサ	○	○		B	C	C		○							青葉山, 米ヶ袋広瀬川畔, 三神峯公園	
134		オオウシノケグサ	○	○	4	B		B	C	○							青葉山, 川内追廻, 野草園	
135		ウキガヤ	○	○			C	C	C					NT			台原	
136		オギ	○	○		C	C	C	C	○							青葉山, 広瀬川中河原緑地	
137		ヨシ	○	○		C	C	C	C	○	○						青葉山	
138		ツルヨシ	○	○		C	C	C		○							花壇広瀬川畔, 広瀬川中河原緑地, 千代大橋付近	
139		オオクマガザ(センダイザサ)	○	○	3												青葉山, 野草園, 大年寺山	
140		スエコザサ	○	○	3												青葉山, 野草園, 大年寺山	
141		スズタケ	○	○		C				○							野草園	
142		マコモ	○	○		B		B		○							野草園など	
143		シバ	○	○		B	B	B		○							米ヶ袋, 野草園	
144	サトイモ	ミズバショウ	○	○		B				○							国見ヶ丘	
145		ヒメザゼンソウ	○	○		B		C									青葉山	
146	ミクリ	ヤマトミクリ	○		1	A		A				NT	CR+EN				野草園	
147	ガマ	ヒメガマ	○	○		C	C	C										
148		ガマ	○	○		C	C	C		○							青葉山, 野草園	
149	カヤツリグサ	カンガレイ	○	○		B		B									青葉山	
150		サンカクイ	○	○		B		B									大堤公園, 広瀬川中河原緑地, 天沼	
151	ラン	エビネ	○	○	1	A						NT	VU				青葉山	
152		サルメンエビネ	○		1	B						VU	CR+EN				青葉山	
153		ユウシュンラン	○	○	1	B						VU	NT				青葉山, 野草園, 八木山	
154		シュンラン	○	○		C		C		○							野草園	
155		コアツモリソウ	○	○	1	B						NT	CR+EN				青葉山	
156		セッコク	○	○	1	EX	EX	EX	EX	EX				CR+EN				
157		エゾスズラン(アオスズラン)	○	○	1	A								NT			八木山	
158		サギソウ	○	○	1	B	A					NT	CR+EN				青葉山, 台原(土地造成により消滅), 国見(土地造成により消滅)	
159		ヒメノヤガラ	○	○	1							VU	VU				青葉山	
160		ジガバチソウ	○	○		C								NT			青葉山	
161		クモキリソウ	○	○	1,4	B			B								青葉山, 野草園, 大年寺山	
162		コフタバラン	○			A								CR+EN			青葉山	
163		オオバノトンボソウ	○			B								VU			青葉山	
164		トキソウ	○	○	1	A						NT	VU				青葉山	
165		ヤマトキソウ	○			A	A							CR+EN			川内三十人町・小松島	
166		マツラン(ベニカヤラン)	○		1	B			B			VU	CR+EN				青葉山	
167		ネジバナ	○	○		B		B		○							広瀬川中河原緑地, 大年寺山	
168		イイヌマムカゴ	○	○	1							EN	CR+EN				青葉山	
	67科	168種	168	124	72	24	138	43	59	24	59	7	30	59	0			

注 1) 仙台市重要種区分, 国RL, 県RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。

- 種名は「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。
- 表中の文献は以下のとおりである。
  - 「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月, 仙台市)
  - 「広瀬川流域の自然環境」(平成6年3月, 仙台市環境局環境計画課)
- 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。
- 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

### イ. 保存樹木, 保存樹林, 保存緑地, 特別緑地保全地区

仙台市の「杜の都の環境をつくる条例」に基づく「保存樹木」、「保存樹林」及び「保存緑地」、「都市緑地法」に基づく「特別緑地保全地区」の調査範囲における指定状況は表 3-10～表 3-12及び図 3-8に示すとおりである。

調査範囲内では、「保存樹木」が 70 箇所(111 本)、「保存樹林」が 8 箇所、「保存緑地」が 32 箇所、「特別緑地保全地区」が 2 箇所指定されている。

なお、対象事業計画地内には、これらの「保存樹木」、「保存樹林」、「保存緑地」及び「特別緑地保全地区」は存在しない。

表 3-10(1) 保存樹木(1/3)

番号	所有者	樹種	指定樹齢(年)	樹高(m)	幹周(m)
1	仙台市	アラカシ	200	16.5	2.3
		イチョウ	350	25.0	4.0
2	仙台市	イチョウ	250	20.0	4.1
3	仙台市	ウメ	200	8.5	2.1
4	仙台市	ケヤキ	160	20.0	5.0
			180	28.0	5.5
5	仙台市	コウヤマキ	300	28.0	2.9
			300	30.0	3.5
6	仙台市	サイカチ	200	15.0	4.5
7	仙台市	シダレザクラ	280	18.0	3.4
8	仙台市	シダレザクラ	390	7.0	2.5
9	仙台市	スギ	500	28.0	4.0
10	仙台市	ラクウショウ	100	17.0	3.0
11	宮城県	サンゴジュ	80	8.5	2.0
12	宮城県	ヒマラヤスギ	70	17.5	1.3
13	東二番丁小学校	クスノキ	100	10.0	1.5
14	東六番丁小学校	ヒガンザクラ	300	10.0	5.6
15	木町通小学校	イチョウ	100	22.0	3.0
			100	22.0	3.3
16	宮城野中学校	チョウセンゴヨウマツ	67	14.0	2.1
17	五城中学校	イロハモミジ	300	21.0	2.4
18	聖ウルスラ学院	ウメ	285	16.7	1.61
			150	25.8	4.36
			250	20.0	4.2
19	東北大学医学部	イスノキ	220	7.7	1.6
20	東北薬科大学	クロマツ	620	14.5	3.4
21	東北大学	イチョウ	200	20.0	4.6
		クロマツ	200	12.0	1.5
		スズカケノキ	75	25.0	2.8
		ハンテンボク	75	17.0	2.0
		メタセコイヤ	27	14.0	1.8
22	宮城刑務所	ウメ	360	8.0	1.3
		クロマツ	330	3.3	1.6

注) 表中の番号は図 3-8の番号に対応する。

出典: 「杜の都の名木・古木」(平成 29 年 3 月, 仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課)

仙台市 HP 「緑の保全」(閲覧: 平成 29 年 3 月)

<https://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/kurashi/shizen/midori/mesho/hozen/index.html>

表 3-10(2) 保存樹木(2/3)

番号	所有者	樹種	指定樹齢 (年)	樹高 (m)	幹周 (m)
23	仙台高等裁判所	イロハカエデ	200	8.5	2.0
		エドヒガンザクラ	250	12.5	3.0
		キャラボク	200	2.5	株立
		コウヤマキ	300	16.0	1.8
			300	16.0	2.4
		シラカシ	350	18.0	1.8
ヒマラヤスギ	80	19.5	3.0		
24	仙台地方検察庁	サルスベリ	300	11.0	1.2
		シダレザクラ	300	15.0	3.3
25	宮城県対がん協会	ケヤキ	200	12.0	3.0
26	社団法人青葉福祉会	アカマツ	400	27.0	4.1
27	大山祇神社	イチョウ	200	21.0	3.6
28	善應寺	キンモクセイ	260	10.0	0.9
		シラカシ	250	15.0	3.1
29	多賀神社	シラカシ	300	18.0	2.3
30	愛宕神社	エドヒガン	350	13.0	3.3
		スギ	580	11.5	3.6
			580	11.5	4.6
31	稲舟神社	イロハカエデ	200	18.0	2.1
32	羽黒神社	アカマツ	120	13.3	1.88
		アカマツ	120	15.0	1.69
		エドヒガン	370	18.0	2.7
			370	18.0	2.8
33	箱石神社	イチョウ	250	19.0	3.6
34	覚範寺	ヒヨクヒバ	250	15.0	2.9
35	宮城野八幡神社	ケヤキ	200	32.0	3.3
36	愚鈍院	カヤ	250	15.0	2.1
37	孝勝寺	クロマツ	310	20.0	2.5
38	栽松院	シラカシ	1,000	7.0	1.7
39	三宝大荒神社	イチョウ	320	25.0	4.1
40	資福寺	コウヨウザン	200	16.0	2.0
		ゴヨウマツ	200	12.5	1.3
		ハクモクレン	320	3.8	1.7
41	秀林寺	サツキ	340	0.8	株立
42	充国寺	クロマツ	395	8.0	1.8
43	称覚寺	イチョウ	200	18.0	3.6
44	称念寺	イチョウ	300	23.0	3.8
			300	23.0	4.7
		カリン	320	15.0	1.3
		キャラボク	300	7.5	株立
		タラヨウ	300	18.0	3.1

注) 表中の番号は図 3-8の番号に対応する。

出典：「杜の都の名木・古木」(平成 29 年 3 月, 仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課)

仙台市 HP「緑の保全」(閲覧：平成 29 年 3 月)

<https://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/kurashi/shizen/midori/mesho/hozen/index.html>

表 3-10(3) 保存樹木(3/3)

番号	所有者	樹種	指定樹齢 (年)	樹高 (m)	幹周 (m)
45	信夫神社	イチョウ	350	23.0	4.2
46	瑞鳳寺	ヒガンザクラ	330	15.0	3.3
47	正楽寺	イチョウ	300	12.0	4.5
		クスノキ	200	15.0	3.6
48	正圓寺	アカマツ	360	16.5	2.2
49	仙岳院	クロマツ	310	5.0	1.0
50	千手観音堂	イチョウ	200	21.0	3.5
51	荘厳寺	アカマツ	350	12.5	3.4
		イロハカエデ	200	12.0	3.1
52	大願寺	タラヨウ	250	12.0	1.1
53	大崎八幡宮	イヌシデ	370	15.0	2.4
		コウヤマキ	390	26.0	2.7
54	大満寺	イチョウ	250	21.5	3.8
55	大林寺	カヤ	250	15.0	3.8
56	東昌寺	アカマツ	350	13.5	2.8
		コウヨウザン	150	14.0	1.8
		マルミガヤ	500	17.5	5.3
57	道仁寺	サクラ	200	14.0	2.3
		サクラ	200	15.0	2.6
		シダレザクラ	200	13.0	2.0
		タブノキ	200	16.0	2.8
58	満福寺	クロマツ	300	21.0	2.8
59	旅立稻荷神社	ケヤキ	200	25.0	3.9
60	輪王寺	コウヨウザン	100	20.0	1.8
		ダイオウショウ	100	21.0	0.9
61	榴岡天満宮	シラカシ	300	15.0	2.9
62	個人所有	イチョウ	1,200	32.0	7.8
63	個人所有	フジ	350	2.0	株立
64	個人所有	ケヤキ	500	14.0	3.1
65	個人所有	ウメ	145	13.0	1.1
66	個人所有	ケヤキ	300	22.0	4.7
67	個人所有	スギ	1,000	25.0	5.5
		エノキ	350	18.0	2.6
68	個人所有	タブノキ	300	19.0	3.9
		カヤ	200	14.0	2.5
		ゴヨウマツ	300	13.0	2.7
69	個人所有	サクラ	100	12.0	2.14
70	個人所有	ケヤキ	150	32.5	3.4

注) 表中の番号は図 3-8の番号に対応する。

出典：「杜の都の名木・古木」(平成 29 年 3 月, 仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課)

仙台市 HP 「緑の保全」(閲覧：平成 29 年 3 月)

<https://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/kurashi/shizen/midori/mesho/hozen/index.html>

表 3-11 保存樹林

番号	名称	形態
①	青葉通：仙台駅前～大町	ケヤキ街路樹
②	定禅寺通(中央分離帯のみ)：東二番丁通～西公園前	ケヤキ街路樹
③	勾当台公園：青葉区本町三丁目 9	ヒマラヤシーダー林
④	西公園：桜ヶ岡公園 2, 桜ヶ岡公園 3	ヒマラヤシーダー林
⑤	①勾当台通外記丁線 ②定禅寺通県庁前線青葉区本町三丁目 9(東隣, 北隣)	イチヨウ並木
⑥	東十番丁線：宮城野区榴ヶ岡五丁目 12(北側)	イチヨウ並木
⑦	広瀬町 4	シラカシ生垣
⑧	子平町 3-11	屋敷林

注) 表中の番号は図 3-8の番号に対応する。

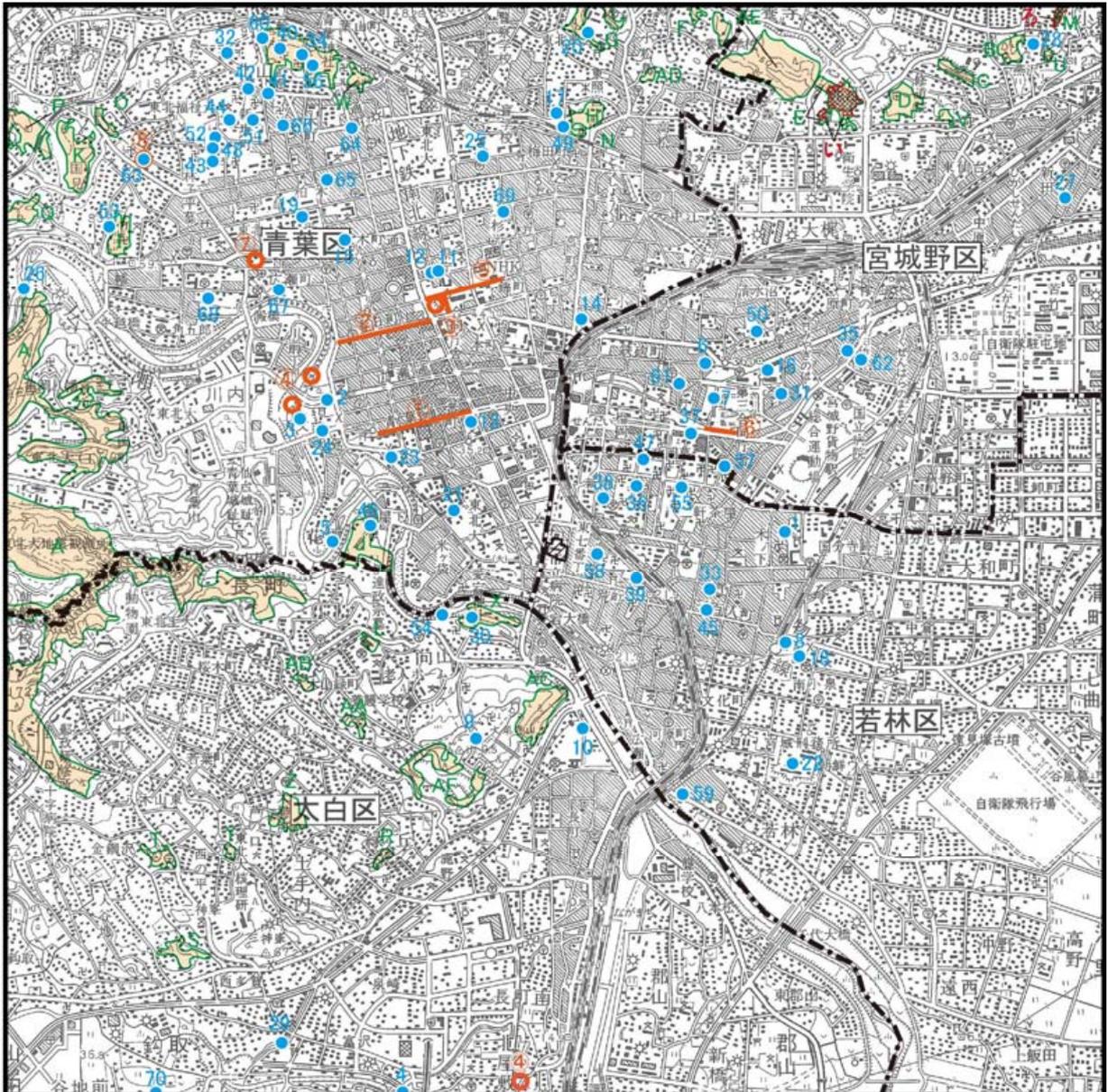
出典：事業概要(平成 26 年 8 月, 仙台市建設局)

表 3-12 保存緑地・特別緑地保全地区

項目	記号	名称	面積(ha)
保存緑地	A	青葉山	362.41
	B	善心寺	2.93
	C	西山	2.40
	D	安養寺	4.48
	E	木皿山	5.76
	F	奥津森	0.51
	G	瞑想の森	4.18
	H	東照宮	3.73
	I	大崎八幡	4.26
	J	霊屋	8.35
	K	国見四丁目 I	9.36
	L	向山高校	0.55
	M	案内沢北	0.81
	N	仙岳院	0.69
	O	一の坂	0.99
	P	狐沢山	7.37
	Q	国見四丁目 II	0.44
	R	滝沢寺	0.75
	S	東原	2.66
	T	金剛沢	2.35
	U	大拙庵	0.44
V	ラ・サールホーム	0.35	
W	北山	14.60	
X	愛宕山	4.25	
Y	西の平	0.65	
Z	橋本農園	4.63	
AA	あびこの杜	0.95	
AB	大泉山 II	0.56	
AC	大年寺山	7.43	
AD	小松島二丁目	0.63	
AE	与兵衛沼	24.89	
AF	ニッ沢	7.24	
特別緑地保全地区	い	栴江	3.3
	ろ	燕沢三丁目	0.9

注) 表中の番号・記号は図 3-8の番号・記号に対応する。

出典：「保存緑地・特別緑地保全地区位置図」(平成 27 年 4 月, 仙台市)



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 保存樹木(1～70)
-  : 保存樹林(①～⑧)
-  : 保存緑地(A～AF)
-  : 特別緑地保全(い, ろ)

出典:「杜の都の名木・古木」(平成29年3月, 仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課)

「保存緑地・特別緑地保全地区位置図」(平成27年4月, 仙台市)

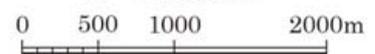
仙台市HP「緑の保全」(閲覧:平成29年3月)

<https://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/kurashi/shizen/midori/mesho/hozen/index.html>

図 3-8 保存樹木・保存樹林・保存緑地・特別緑地保全地区



S=1:50,000



ウ. 植生の状況

A: 植生及び植物の生育地として重要な地域の状況

調査範囲の植生は、図 3-9に示すとおりであり、対象事業計画地の植生は「市街地」である。また、対象事業計画地周辺には「市街地」が広がっている。

「平成 27 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 28 年 3 月, 仙台市)では、環境省の植生自然度 9, 10(自然植生)に該当する植生を「自然性の高い植生」として位置づけている。調査範囲における自然性の高い植生の分布は図 3-10に示すとおりであり、広瀬川沿い、竜ノ口溪谷及び青葉山などに分布しているが、対象事業計画地の植生は、「自然性の高い植生」に該当しない。

なお、植生自然度の区分基準は表 3-13のとおりである。

表 3-13 植生自然度の区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギーコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑畑、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：「平成 27 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 28 年 3 月, 仙台市)

「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)では、表 3-14に示す選定基準により、保全上重要な植物の生育地を選定している。

調査範囲においては、表 3-15及び図 3-11に示す植物の生育地として重要な地域が存在するが、対象事業計画地には存在しない。

表 3-14 保全上重要な動植物の生息地・生育地選定のための基準

No.	判断理由
1	・保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域(動物の繁殖場、集団越冬地となっている地域など)
2	・多様な生物相が保存されている地域
3	・自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	・湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	・自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	・環境教育の場としてふさわしい地域
7	・郷土の特色が保存されている地域(里地・里山・居久根等)
8	・緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域(山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等)
9	・海辺や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

表 3-15 植物の生育地として重要な地域

No.	件名	備考	判断理由
①	東北大学植物園のモミ林	国指定天然記念物。モミの大木を主体とした針広混交林で、原生林に近い。仙台市街地の西縁に残存し極めて貴重である。青葉城の背後を守る御裏林として保全管理されてきた。カシ類やシロダモ、カラスザンショウ、イイギリといった暖地性植物も混交し、階層ごとに多様な植物がみられる。	1,2,3,6,7,8
②	霊屋のスギ林	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で、林床には暖地性の植物も多く、北限近くの自然林のあり方を知る上でも貴重な群落。	5,6,7
③	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。立地や洪水様態に応じた多様な植生が認められ、ヤナギ類の群落を中心に、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場としても極めて貴重。	8,9
④	与兵衛沼周辺の里地・里山植生	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7,8
⑤	茂ヶ崎・愛宕神社周辺の里地・里山植生	市街地南部の段丘に残された、まとまりのある緑地。歴史的な建造物や仙台市野草園を含み、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7,8
⑥	三神峯公園周辺の里地・里山植生	市街地に内部に残された段丘に沿ったまとまりのある緑地として重要。登山を中心に市民の憩いの場としても貴重。	7,8
⑦	竜ノ口溪谷の自然林	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。広瀬川中流域。高さおよそ70mに及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷で、両岸に残存する大木と独特の植物相が残る。	3
⑧	榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	市街地内部に残された、段丘に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7,8
⑨	八幡・国見・放山地区の緑地	市街地の内部の段丘に残された、地滑り地に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7,8
⑩	奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生	市街地の南部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。また、青葉山は、狭い地域内に800種以上の植物が自生し、里山の自然に親しむ場として活用されており、環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7,8
⑪	燕沢三丁目の緑地	燕沢三丁目の特別緑地保全地区。市街地に残された景観上優れた緑地として重要。	7

注 1) 表中のNo.は図 3-11の番号に対応する。

2) 判断理由は表 3-14に対応する。

出典：「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月、仙台市）

## B: 重要な植物群落

「宮城県レッドデータブック 2016」(平成 28 年 3 月, 宮城県)では, 保護管理の観点から重要な植物群落を選定している。

調査範囲においては, 表 3-17及び図 3-11に示す重要な植物群落が存在するが, 対象事業計画地には存在しない。

表 3-16 重要な植物群落のカテゴリー区分

カテゴリー	区分	状況
D	壊滅	—
4	壊滅状態	群落は全体的に壊滅状態にあり, 緊急に対策を講じなければ壊滅する。
3	壊滅危惧	群落は対策を講じなければ徐々に悪化して壊滅する。
2	破壊危惧	群落は当面保護されているが, 将来破壊されるおそれがある。
1	要注意	群落は, 現在保護・管理状態が良く, 当面破壊されるおそれがない。しかし, 監視は必要である。

出典:「宮城県レッドデータブック 2016」(平成 28 年 3 月, 宮城県)

表 3-17 重要な植物群落(調査群落)

No.	調査群落	カテゴリー	備考
①	東北大学大学院理学研究科 附属植物園の植物群落	3	青葉城の背後を護る御裏林として管理されてきた自然度の高い温帯混交林で, 高さ 35m に達するモミが優占する。丘陵地の凸凹や絶壁などの地形変化に対応してアカマツ林やアカシデ林も分布する。カン類やシロダモ, カラスザンショウ, イイギリといった暖地性植物が多数混交する。 (国指定天然記念物, 仙台市保存緑地, 広瀬川の清流を守る条例特別環境保全区域, 特定植物群落)
②	霊屋のスギ植林	1	仙台藩祖伊達政宗公の廟所付近に, 人工的に植林された林分で, 植林後 300 年以上たっているスギもあり, 伐採等はほとんど行わなかったので自然性の高い群落となっている。高木層は高さ 30m にも達するスギ, 亜高木層には暖地性のシロダモ, カクレミノなどが, スギにより寒風より保護されるように生育している。また, 草本層には, ウワバミソウが目立つ。北限近くの暖地性植物の生育状況を知る上でも, 貴重な群落である。 (仙台市保存緑地, 特定植物群落)

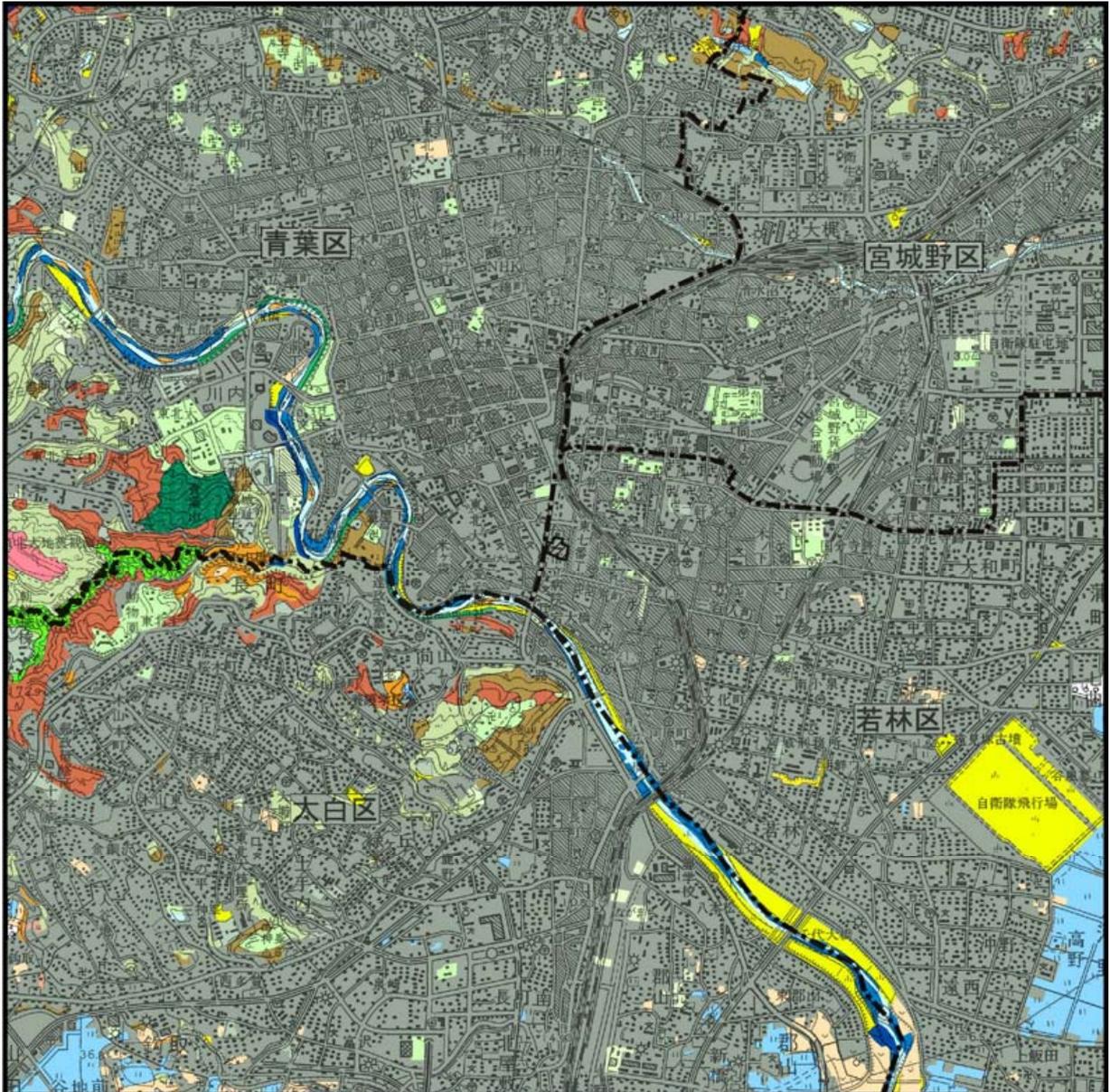
注 1) 表中の No. は図 3-11 の番号に対応する。

2) カテゴリーは表 3-16 に対応する。

出典:「宮城県レッドデータブック 2016」(平成 28 年 3 月, 宮城県)

## エ. その他事業の立地上配慮を要する植物

対象事業計画地及びその周囲の植生は, 図 3-9 に示したとおり「市街地」であり, 事業の立地上配慮を要する植物種が存在する可能性は低い。



凡例

: 対象事業計画地

: 区境界線

ブナクラス域自然植生

- モミーイヌブナ群集
- ケヤキ群落 (IV)
- イヌシダーアカンデ群落
- ヤナギ高木群落 (IV)
- ヤナギ低木群落 (IV)
- ハンノキ群落 (IV)

ブナクラス域代償植生

- アカマツ群落 (V)
- 落葉広葉低木群落
- ススキ群団 (V)
- 伐採跡地群落 (V)

ヤブツバキ域代償植生

- クリーコナラ群集

河川・湿原・塩沼池・砂丘植生等

- ヨシクラス

植林地・耕作地植生

- スギ・ヒノキ・サワラ植林
- 竹林
- ゴルフ場・芝地
- 路傍・空地雑草群落
- 果樹園
- 畑雑草群落
- 水田雑草群落

市街地等

- 市街地
- 緑の多い住宅地
- 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
- 造成地
- 開放水域
- 自然裸地

出典:「平成27年度 仙台市自然環境基礎調査(平成27年度仙台市現存植生図)」(閲覧:平成29年3月)

<http://www.city.sendai.jp/kankyochose/kurashi/shizen/petto/tayose/kisochoha/index.html>

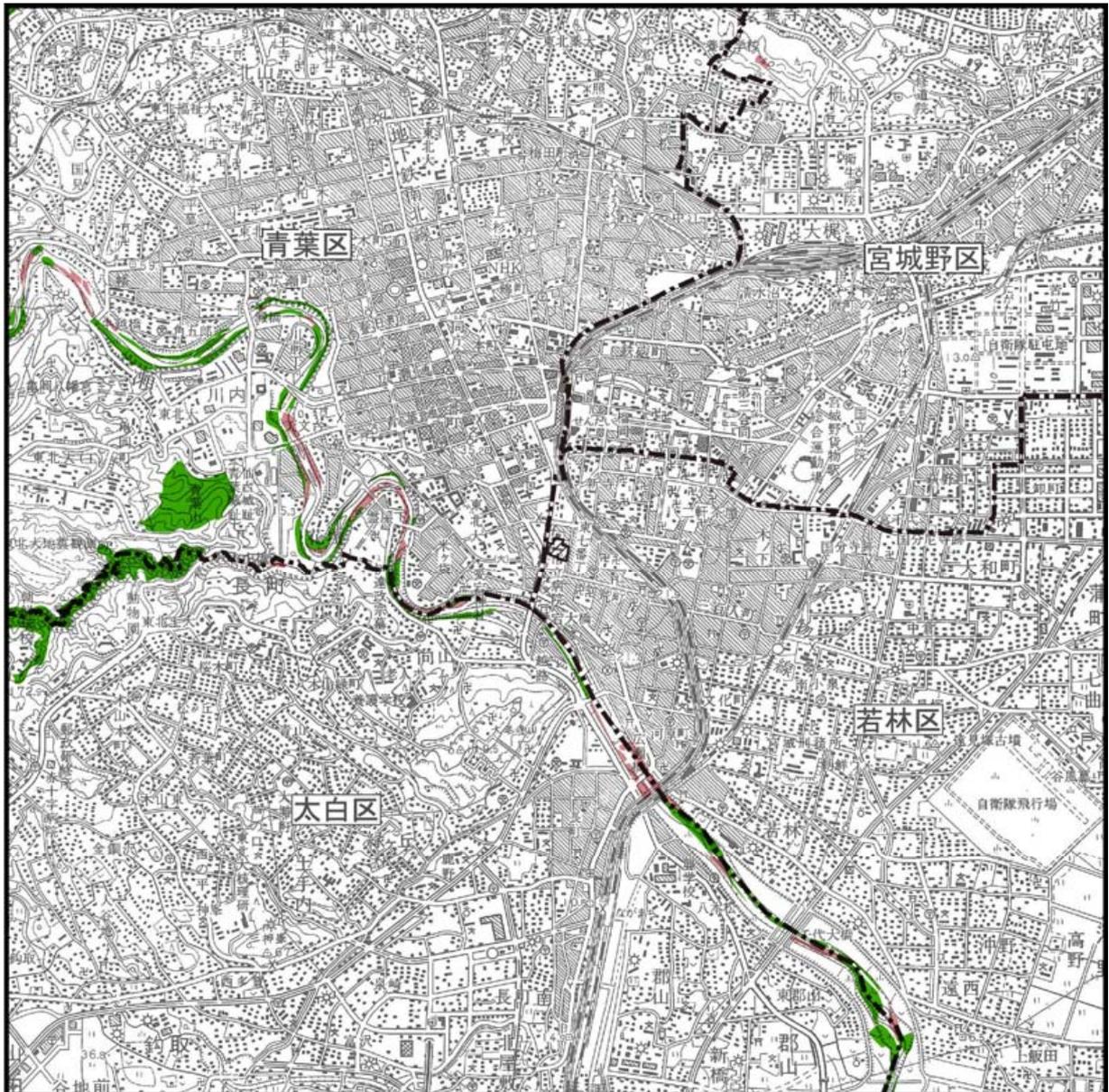
注) 植生のクラス域は、「平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成28年3月, 仙台市)を参照。

図 3-9 植生図



S=1:50,000

0 500 1000 2000m



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 植生自然度:10  
(ヨシクラス)
-  : 植生自然度:9  
(ブナクラス域自然植生)

出典:「平成27年度 仙台市自然環境基礎調査(平成27年度仙台市現存植生図)」(閲覧:平成29年3月)

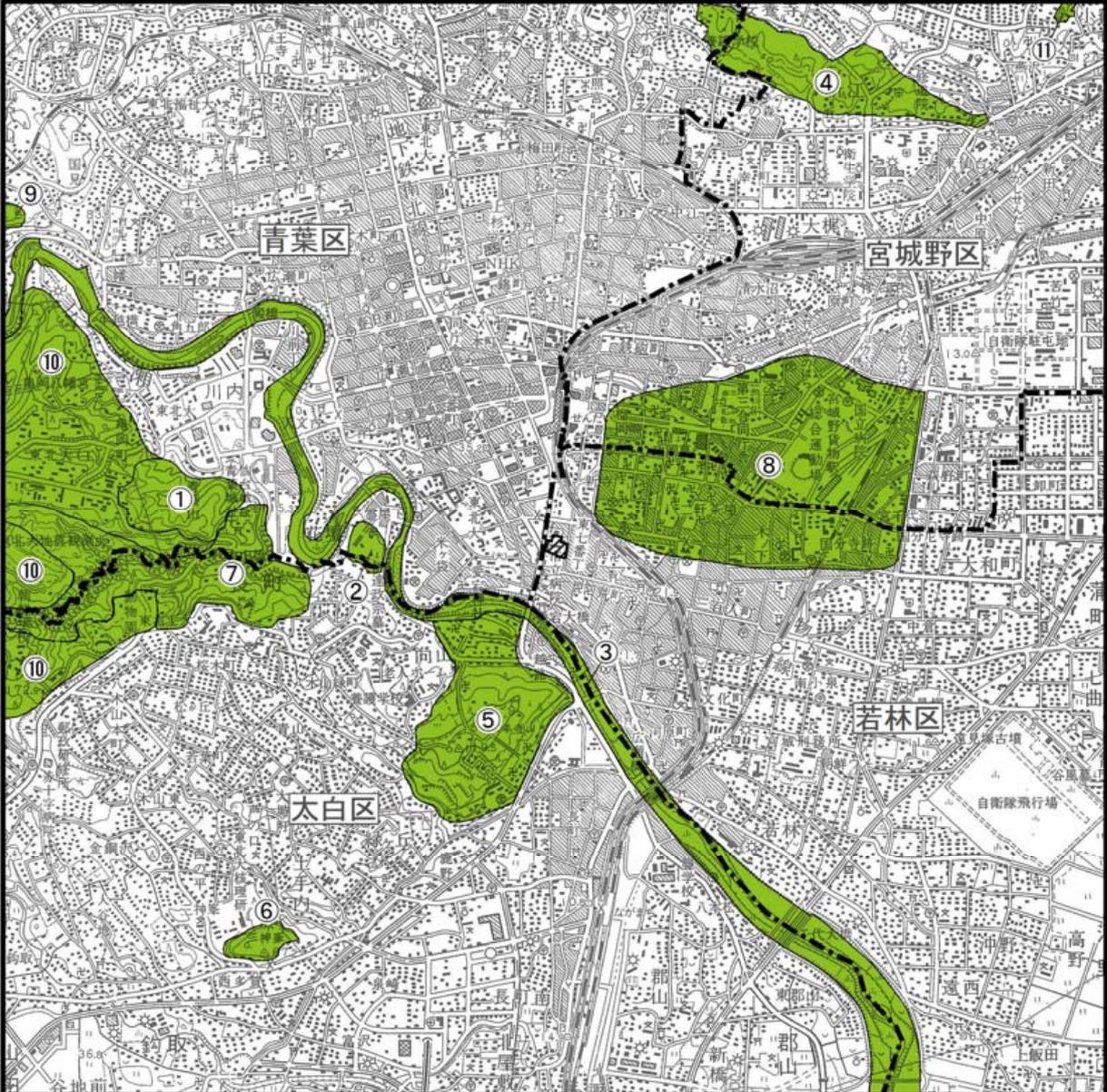
<http://www.city.sendai.jp/kankyochose/kurashi/shizen/petto/tayose/kisochosa/index.html>

注) 植生自然度は、「平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成28年3月, 仙台市)を参照。

図 3-10 自然性の高い植生



S=1:50,000  
0 500 1000 2000m



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 植物生育地として重要な地域  
重要な植物群落を含む地域 (①, ②)

出典:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月, 仙台市)

図 3-11 植物の生育地として重要な地域及び重要な植物群落



S=1:50,000  
0 500 1000 2000m

### 3.4. 動物

#### ア. 調査範囲の注目すべき動物種の状況

調査範囲は、主に「市街地地域」に該当している。市街地では、人の生活空間の拡大等により動物の生息環境が減少しているが、公園や緑地、河川沿いなどでキツネ、イタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタなどの動物が生息している。

調査範囲内における注目すべき動物種の状況は、以下に示す 2 つの文献から整理した。具体的には、これら文献に掲載されている種のうち、表 3-7 に示す選定基準に該当するものを注目すべき種として整理した。ただし、文献①については、仙台市全域を対象としていることから、地域区分が「市街地地域」とされている減少種(表 3-8 参照)、または、種の分布地として調査範囲内の地域(青葉山、広瀬川、大年寺山等)が示されている種を抽出した。

整理した結果、注目すべき動物種の種数は表 3-18 に示すとおり 156 種であった。なお、注目すべき動物種は表 3-19～表 3-24 に示す。

- ① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)
- ② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)

表 3-18 注目すべき動物種の種数

項目	目数	科数	種数	文献		仙台市重要種区分							ふなひし種	国 RL	県 RDB	天記・種保存法
				文献①	文献②	学術上重要種	注目種									
							減少種									
							山地	田園・西部丘陵地	市街地	東部田園	海浜	環境指標種				
哺乳類	4	7	11	11	7	5	6	9	8	4	4	11	1	1	2	0
鳥類	14	30	68	68	64	48	18	56	64	53	45	42	5	22	26	5
爬虫類	1	4	8	8	7	2	2	3	8	6	3	6	1	0	1	0
両生類	2	5	10	10	10	1	1	7	10	5	0	7	3	4	5	0
魚類	7	9	13	13	8	9	4	6	10	10	8	8	3	11	10	0
昆虫類	7	34	46	46	21	25	6	23	25	15	6	13	3	18	35	0
合計	35	89	156	156	117	90	37	104	125	93	66	87	16	56	79	5

注 1) 国 RL: 「環境省レッドリスト 2015」(平成 27 年 環境省報道発表資料)掲載種  
 県 RDB: 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物—RED DATA BOOK MIYAGI 2016—」(平成 28 年 3 月, 宮城県)掲載種  
 天記: 「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)における特別天然記念物または天然記念物  
 種保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成 4 年法律第 75 号)における国内希少野生動植物種または国外希少野生動植物種

- 2) 表中の文献は以下のとおりである。
  - ① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)
  - ② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)
- 3) 減少種の地域区分については、表 3-8 を参照。

表 3-19 注目すべき動物種【哺乳類】

No.	目名	科名	種名	文献		仙台市重要種区分										天記・種保存法	分布地
						注目種					学術上重要種	環境指標種	国RL	県RDB			
				減少種													
				①	②	山地	西部土地・田圃	市街地	東部田圃	海浜							
1	モグラ(食虫)	トガリネズミ	ホンシュウジネズミ	○	○			C	B	C							
2	コウモリ(翼手)	キクガシラコウモリ	ニホンキクガシラコウモリ	○	○	1	C	C	C								青葉山
3			ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	○	○	1,4	C	C	C							
4			ヤマコウモリ		○	○	1,4	C	C	C	C	C			VU	VU	
5			ヒナコウモリ		○	○	1,4	C	C	C		C				VU	
6	ネズミ(齧歯)	リス	ムササビ	○		1,4		C	C								経ヶ峯, 広瀬川(米ヶ袋), 青葉山
7		ネズミ	ハタネズミ	○	○			C	C	C	C						
8			ヒメネズミ	○	○												鉤取
9	ネコ(食肉)	イヌ	タヌキ	○									○	○			宮城野区鶴ヶ谷
10		イタチ	テン	○			C	C									青葉山, 八木山
11			イタチ	○			C	C	C	C	C						鉤取
	4目	7科	11種	11	7	5	6	9	8	4	4	4	11	1	1	2	0

注 1) 仙台市重要種区分, 国RL, 県RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。  
 2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。  
 3) 表中の文献は以下のとおりである。  
 ① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)  
 ② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)  
 4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。  
 5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-20(1) 注目すべき動物種【鳥類】(1/2)

No.	目名	科名	種名	文献		仙台市重要種区分							学術上重要種	天記・種保存法	分布地		
						注目種					環境指標種	国 RL				県 RDB	
				減少種													
				①	②	山地	西部陸・園	市街地	東部田園	海浜							
1	キジ	キジ	ウズラ	○	○	1,4	A	A	A	A	A		VU	CR+EN		八木山	
2	カモ	カモ	マガン	○	○	1,4			A	B	B		NT		天記		
3			オシドリ	○	○	1,4		C	B				DD			広瀬川, 五色沼	
4	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○			C	B	C	C	○					
5	ペリカン	サギ	サンカノゴイ	○		1		B	A	B	B		EN	NT			
6			ヨシゴイ	○	○	1,4		C	B	C	C	○	NT	NT		広瀬川	
7			ミゾゴイ	○		1,4	C	B					VU	NT		今泉, 青葉山	
8			アマサギ	○	○	4			A			○					
9			チュウサギ	○	○	1,2,4		C	A	C	C			NT			長町南
10			コサギ	○	○			C	B			○					広瀬川
11	ツル	クイナ	クイナ	○	○	1,4		C	A	B	B				要	広瀬川, 鶴ヶ谷, 大年寺山	
12			ヒクイナ	○	○	1,4		C	B	B	B		NT	CR+EN			
13			バン	○	○	1,4		C	B	C	C	○					広瀬川, 台原
14	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	○	○	1,4			C	C	C	○					
15			カッコウ	○	○	1,4	C	C	B	C	C	○	○				鶴ヶ谷, 広瀬川, 台原, 青葉山
16	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○	○	1,4		C	B			○	NT	NT		青葉山, 与兵衛沼緑地, 榴ヶ岡公園	
17	チドリ	チドリ	イカルチドリ	○	○	1,4	C	C	B	B		○				広瀬川	
18			シギ	○	○	1,4	B	B	A	B	B		NT	NT			
19			カモメ	○	○	1,2,4			A	B	B		VU	VU	国際	広瀬川	
20	タカ	ミサゴ	○	○	1,4				C	C	○	NT				広瀬川	
21		タカ	○	○	1,2,4		B	B	B	B		VU	VU	天記、国内・国際	鶴ヶ谷, 日辺, 広瀬川		
22		チュウヒ	○	○	1,4		C	B	C	C	○	EN	NT		広瀬川, 今泉, 三神峯		
23		ツミ	○	○	1,4	C	C	C	C	C			DD		八木山		
24		ハイタカ	○	○	1,4	C	C	C	C	C			NT	NT			
25		オオタカ	○	○	1,4	C	C	B	B	C	○	NT	NT	国内	青葉山, 広瀬川, 荒巻, 台原		
26		サンバ	○	○	1,4	C	C	A	C	C		VU	VU				
27	ノスリ	○	○			C	C	C		○					青葉山, 広瀬川		
28	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	○		1	C	C	C	B	B				要		
29			コノハズク	○	○	1	C	C				○			要	八幡, 三神峯	
30			フクロウ	○	○	1	C	C	B	B	C	○	○				鶴ヶ谷, 三神峯, 与兵衛沼
31			アオバズク	○	○	1		C	B	B	B	○	○	VU			川内, 富沢, 与兵衛沼, 茂ヶ崎, 土樋
32			トラフズク	○	○	1				B	B						郡山
33			コミミズク	○	○	1		B	A	B	B	○			要		芥川
34	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○	○	1,4		C	C	C		○	○			広瀬川, 芥川, 台原, 小松島新堤沼, 梅田川, 与兵衛沼, 鶴ヶ谷	

注 1) 仙台市重要種区分, 国 RL, 県 RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。

2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。

3) 表中の文献は以下のとおりである。

① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)

4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。

5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-20(2) 注目すべき動物種【鳥類】(2/2)

No.	目名	科名	種名	文献		仙台市重要種区分										国 RL	県 RDB	天記・種保存法	分布地
						注目種													
						減少種													
						学術上重要種	山地	西部丘陵・田園	市街地	東部田園	海浜	遷移地種	ふもと種						
①	②																		
35	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	○	○	1,4			B			○			要		広瀬川, 鈎取沢川		
36	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	○	○			C	B	C	C						青葉山, 広瀬川下流		
37			アオゲラ	○	○			C	B	C	C	○					青葉山公園		
38	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	○	○	1,4		C	B	C	B								
39			チゴハヤブサ	○	○				B	B					要		八木山		
40			ハヤブサ	○	○	1,4	C	B	B	B	B			VU	NT	国内	青葉山, 経ヶ峰, 広瀬川, 三神峯, 台原, 大年寺山		
41	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	○	○		C	C	B	C	C		VU	VU			八木山, 青葉山公園, 鶴ヶ谷		
42		カササギヒタキ	サンコウチョウ	○	○	1		C	B			○					三神峯, 台原, 青葉山, 広瀬川, 竜ノ口溪谷		
43		モズ	チゴモズ	○	○	1,4		B	B	B			CR	CR+EN			富沢		
44			モズ	○	○	1		C	B	C	C	○						広瀬川, 青葉山公園	
45			アカモズ	○	○	1,4		B	B	B	B			EN	CR+EN			広瀬川	
46		ヒバリ	ヒバリ	○	○			C	B	C	C	○							
47		ツバメ	ツバメ	○	○			C	C	C		○							
48		ウグイス	ウグイス	○	○	1,4			C	C	C	○	○					青葉山公園, 広瀬川	
49		ムシクイ	センダイムシクイ	○	○			C	B			○						青葉山公園	
50		ヨシキリ	オオヨシキリ	○	○	1,4		C	B	C	C	○						川内, 米ヶ袋, 鶴ヶ谷, 霞目	
51			コヨシキリ	○	○	1,4		C	A	C	C	○						青葉山, 広瀬川	
52		セッカ	セッカ	○	○	1,4		C	B	C	C	○						広瀬川下流	
53		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○				B			○						大年寺, 青葉山	
54		カワガラス	カワガラス	○	○			C	B			○						広瀬川	
55		ヒタキ	トラツグミ	○	○			C	B	C	C	○						青葉山, 安養寺	
56			クロツグミ	○	○	1,4		C	B	C	C	○						広瀬川下流	
57	シロハラ		○	○			C	B			○								
58	コルリ		○		1,4		C	B	C	C	○								
59	ルリビタキ		○	○			C	C	C	C								青葉山公園	
60	コサメビタキ		○	○				B			○							青葉山公園, 三神峯公園	
61	キビタキ		○	○			C	B			○							榴ヶ岡公園	
62	オオルリ		○	○	1,4		C	C	C	C	○								
63	セキレイ	キセキレイ	○	○	1,4		C	C	C		○						広瀬川		
64		セグロセキレイ	○	○	4	C	C	C	C		○						広瀬川		
65	ホオジロ	ホオジロ	○	○				B	C	C	○						広瀬川, 鶴ヶ谷, 梅田川		
66		ホオアカ	○	○			B	C	A	C	B	○							
67		ノジコ	○	○	1,4	C	C	B					NT	要			広瀬川中流域		
68		アオジ	○	○		C	C	C	C	C								広瀬川	
	14 目	30 科	68 種	68	64	48	18	56	64	53	45	42	5	22	26	5			

注 1) 仙台市重要種区分, 国 RL, 県 RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準(示す番号・記号等)に該当する。  
 2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。  
 3) 表中の文献は以下のとおりである。  
 ①「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)  
 ②「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)  
 4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。  
 5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-21 注目すべき動物種【爬虫類】

No.	目名	科名	種名	文献		仙台市重要種区分						学術上重要種	国 RL	県 RDB	天記・種保存法	分布地	
						注目種											
				減少種													
				①	②	山地	西部麓・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種						
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○	1		C	A			○					
2		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○				C	C		○	○			竜ノ口溪谷, 若林, 荒巻, 川内, 小松島, 柳江	
3		ナミヘビ	タカチホヘビ	○	○	1			A					DD		青葉山, 向山	
4			アオダイショウ	○	○					B	C	C	○			八木山, 竜ノ口溪谷, 川内, 日辺, 花壇, 堰場, 鶴ヶ谷	
5			ジムグリ	○	○					B	C	C	○			竜ノ口溪谷, 今泉, 青葉山	
6			ヒバカリ	○			C	C	C	C	B		○			釣取, 沖野, 荒巻, 台原	
7			ヤマカガシ	○	○				A	C			○				
8			クサリヘビ	ニホンマムシ	○	○		C	C	A	C						
	1目	4科	8種	8	7	2	2	3	8	6	3	6	1	0	1	0	

注 1) 仙台市重要種区分, 国 RL, 県 RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。

2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。

3) 表中の文献は以下のとおりである。

① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)

4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。

5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-22 注目すべき動物種【両生類】

No.	目名	科名	種名	文献		仙台市重要種区分										天記・種保存法	分布地	
				①	②	学術上重要種	注目種					減少種	国 RL	県 RDB				
							山地	西部丘陵・田園		市街地	東部田園				海浜			
								標準地指標種										
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	○	○	4		C	B			○		NT	NT			
2			クロサンショウウオ	○	○			C	A			○		NT	LP		国見, 千代田町付近	
3			イモリ	アカハライモリ	○	○			C	A	C		○	○	NT	LP		川内
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○			C	B	C							川内, 小田原, 台原	
5			アカガエル	タゴガエル	○	○			C	A							青葉山	
6			ニホンアカガエル		○	○				A	C						沖野, 日辺, 富沢, 今泉	
7			トウキョウダルマガエル		○	○		C	C	A	C		○	○	NT	NT		
8			ツチガエル		○	○			C	A			○			NT		
9			アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○	○					B	C		○				
10			カジカガエル		○	○					B			○	○			広瀬川上流～大橋付近, 竜ノ口溪谷
2目		5科	10種	10	10	1	1	7	10	5	0	7	3	4	5	0		

- 注 1) 仙台市重要種区分, 国 RL, 県 RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。  
 2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。  
 3) 表中の文献は以下のとおりである。  
 ① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)  
 ② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)  
 4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。  
 5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-23 注目すべき動物種【魚類】

No.	目名	科名	種名	文献		仙台市重要種区分							学術上重要種	国 RL	県 RDB	天記・種保存法	分布地
				①	②	注目種											
						減少種					環境指標種						
						山地	西部・陸・園	市街地	東部・田園	海浜							
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類	○	○	1	C	B	C	C				VU	NT		広瀬川, 筑川の中流から上流
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○	○	1		B	B	C	C	○	EN	NT		広瀬川	
3	コイ	コイ	キンブナ (河川のキンブナ)	○	○				C	C			VU	NT			
4			タナゴ	○			EX	EX	EX	EX	EX			EN	CR+EN		
5			アカヒレタビラ	○			EX	EX	EX	EX	EX			EN	CR+EN		
6			ゼニタナゴ	○			EW	EW	EW	EW	EW			CR	CR+EN		
7			ウグイ	○	○							○					広瀬川
8			ドジョウ	ドジョウ	ホトケドジョウ	○	○	1			C	C		○	EN	NT	
9	サケ	アユ	アユ	○	○					C	○	○				広瀬川, 梅田川	
10		サケ	サクラマス	○		1			C	C	C	○	NT	NT		春に広瀬川に成魚が遡上	
11	ダソ	メダカ	ミナミメダカ	○	○	1		A	A	C	C	○	VU	NT		広瀬川	
12	トゲウオ	トゲウオ	ニホンイトヨ	○		1,4				A	A		LP	DD		梅田川	
13	カサゴ	カジカ	カジカ	○	○				B			○	NT			筑川, 広瀬川	
	7 目	9 科	13 種	13	8	9	4	6	10	10	8	8	3	11	10	0	

注 1) 仙台市重要種区分, 国 RL, 県 RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。

2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。

3) 表中の文献は以下のとおりである。

① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)

4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。

5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

表 3-24(1) 注目すべき動物種【昆虫類】(1/2)

No.	目名	科名	種名	文献		仙台市重要種区分							天記・種保存法	分布地			
						学術上重要種	注目種					環境指標種			国 RL	県 RDB	
				①	②		減少種										
							山地	西部平地・田圃	市街地	東部田圃	海浜						
1	トンボ(蜻蛉)	イトトンボ	ヒヌマイトトンボ	○		1,2	EX	EX	EX	EX	EX		EN	CR+EN			
2		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	○							C		NT	NT	若林区		
3			マルタンヤンマ	○								C		NT	若林区		
4		サナエトンボ	ウチワヤンマ	○		1		C	B	C							
5			ナゴヤサナエ	○		1,2				C				VU	CR+EN	鈎取	
6		エゾトンボ	エゾトンボ	○											VU	青葉区北七番丁	
7		トンボ	ハッチョウトンボ	○	○	1		B	A						VU		
8			コノシメトンボ	○		1		A							CR+EN	青葉区国見	
9			キトンボ	○		1		A	A						VU		
10			ヒメアカネ	○	○	1		B	A						CR+EN		
11	バッタ(直翅)	マツムシ	スズムシ	○		1		B	A	B		○			青葉区国見		
12		ヒバリモドキ	ハマスズ	○	○									CR+EN	若林区		
13		バッタ	ヤマトマダラバッタ	○		2						C	○		VU	若林区、宮城野区	
14			カワラバッタ	○	○	1			B	B			○		NT	青葉区評定河原	
15	カメムシ(半翅)	セミ	エゾゼミ	○	○				B				○			大年寺、向山、青葉山、台原	
16		ヨコバイ	スナヨコバイ	○	○									NT	CR+EN	若林区	
17		コオイムシ	コオイムシ	○		1		B	A	A				NT	NT	太白区富沢	
18			タガメ	○		1		B	A	A			○	VU	CR+EN		
19	アミメカゲロウ(脈翅)	ツノトンボ	ツノトンボ	○		1		A						CR+EN	金剛沢(消失)		
20		ウスバカゲロウ	オオウスバカゲロウ	○							C	○		CR+EN	青葉区、若林区		
21	チョウ(鱗翅)	セセリチョウ	チャマダラセセリ	○	○	1	A	A						EN	CR+EN	太白区	
22		シジミチョウ	クロシジミ	○	○	1		A	A					EN	CR+EN	青葉区(市内では1992年の記録が最後)	
23		タテハチョウ	オオウラギンヒョウモン	○				EX	EX	EX	EX	EX			CR	EX	太白区
24			オオムラサキ	○	○	1		C	B	B			○		NT		青葉区川内
25		アゲハチョウ	アオスジアゲハ	○	○	4							○	○			青葉区、太白区
26			ヒメギフチョウ本州亜種	○	○	1		C	B	B			○		NT	NT	青葉山
27		シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種	○				EX	EX	EX	EX	EX			EN	CR+EN	青葉区、太白区、宮城野区、若林区
28		ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	○	○				C	C	C		○				青葉山
29		スズメガ	ヒメスズメ	○											NT	VU	市街地(1962年確認)
30		ドクガ	フタホシドクガ	○	○	1				C						NT	
31	ヤガ	コシロシタバ	○		1		A		A					NT	VU		

注 1) 仙台市重要種区分、国 RL、県 RDB、天記・種保存法の番号・記号等は、表 3-7の選定基準(示す番号・記号等)に該当する。  
 2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。  
 3) 表中の文献は以下のとおりである。  
 ① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)  
 ② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)  
 4) 表中の分布地は、文献①に記載されている分布地を示す。  
 5) 減少種の地域区分については、表 3-8を参照。

表 3-24(2) 注目すべき動物種【昆虫類】(2/2)

No.	目名	科名	種名	文献		仙台市重要種区分										天記・種保存法	分布地
						注目種					学術上重要種	環境指標種	国 RL	県 RDB			
				減少種													
				①	②	山地	西部・陸地・田園	市街地	東部・田園	海浜							
32	コウチュウ(鞘翅)	オサムシ	ヤマトトクリゴミムシ	○	○	1		B									若林区
33		ハンミョウ	ハンミョウ	○	○			B	B								青葉区竜ノ口溪谷
34		ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	○	○	1			B	B			VU	NT			
35			エゾヒメゲンゴロウ	○	○										DD		青葉区竜ノ口
36		クワガタムシ	ミヤマクワガタ	○	○			C	B			○	○				
37			ノコギリクワガタ	○	○			C	C	C		○					
38		コガネムシ	アカマダラハナムグリ	○									DD	NT			太白区八木山
39		タマムシ	ヤマトタマムシ	○		1,2		B	A	A				NT			
40		ホタル	ゲンジボタル	○	○	1		C	B	C		○		NT			小松島
41		カミキリムシ	ヨツボシカミキリ	○	○								EN	CR+EN			青葉区, 太白区
42		ハムシ	タグチホソヒラタハムシ	○										VU			青葉区
43	ハチ(膜翅)	ギングチバチ	ササキリギングチ	○									NT				青葉山
44		アリマキバチ	ミヤギノヨコバイバチ	○										VU			青葉山
45			キアシマエダテバチ	○										DD			宮城野区
46		コハナバチ	アオスジハナバチ	○		1,2								CR+EN			仙台市野草園
	7目	34科	46種	46	21	25	6	23	25	15	6	13	3	18	35	0	

注 1) 仙台市重要種区分, 国 RL, 県 RDB, 天記・種保存法の番号・記号等は, 表 3-7の選定基準に示す番号・記号等に該当する。

2) 種名は「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」に準拠した。

3) 表中の文献は以下のとおりである。

① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

② 「広瀬川流域の自然環境」(平成 6 年 3 月, 仙台市環境局環境計画課)

4) 表中の分布地は, 文献①に記載されている分布地を示す。

5) 減少種の地域区分については, 表 3-8を参照。

## イ. 動物生息地として重要な地域の状況

「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)では, 表 3-14に示す選定基準により, 動物生息地として重要な地域を選定している。調査範囲においては, 表 3-25及び図 3-12に示す地域が存在するが, 対象事業計画地は該当しない。

表 3-25 動物の生息地として重要な地域

No.	件名	対象動物	備考	判断理由
①	竜ノ口溪谷	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタットとして重要。高さおよそ 70mに及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷。ハヤブサの繁殖。	4
②	青葉山	鳥類	仙台市街地の西縁に位置する緑地で, 森林性鳥類が豊富。野生動植物のハビタット, 環境学習のフィールドとして重要。豊かな里地里山生態系のシンボルであるオオタカも生息し, 毎年繁殖の成功が確認されている。環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	1,2,5,6,7
③	広瀬川(中～下流域)	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタット, 生態系回廊(生態系コリドー)として重要。中流部は森林性から草地, 水辺の鳥まで豊富。下流部は, オジロワシ, オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地性鳥類。アオジの生息及び繁殖。	2,7,8
④	低地の水田地帯	鳥類	野生動植物のハビタット, 生態系回廊(生態系コリドー)として重要。セッカの繁殖, ホオアカの繁殖, 四郎丸地区はメダカの生息地。居久根は低地における鳥類の生息地及び移動のための中継地として重要。	1,7,8
⑤	奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊	動物全般	市街地の南部に位置する。野生動植物のハビタット, 生態系回廊(生態系コリドー)として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2,8
⑥	与兵衛沼公園	動物全般	市街地の内部に残された, まとまりのある緑地, 里地・里山植生であり, 野生動植物のハビタット, 環境学習のフィールドとして重要である。	1,6,7
⑦	大年寺	動物全般	大年寺風致地区。市街地の南部の段丘に残された, まとまりのある緑地であり, 野生動植物のハビタットとして重要である。	1,6,7
⑧	霊屋	哺乳類	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で, 野生動植物のハビタットとして重要。	5,6,7

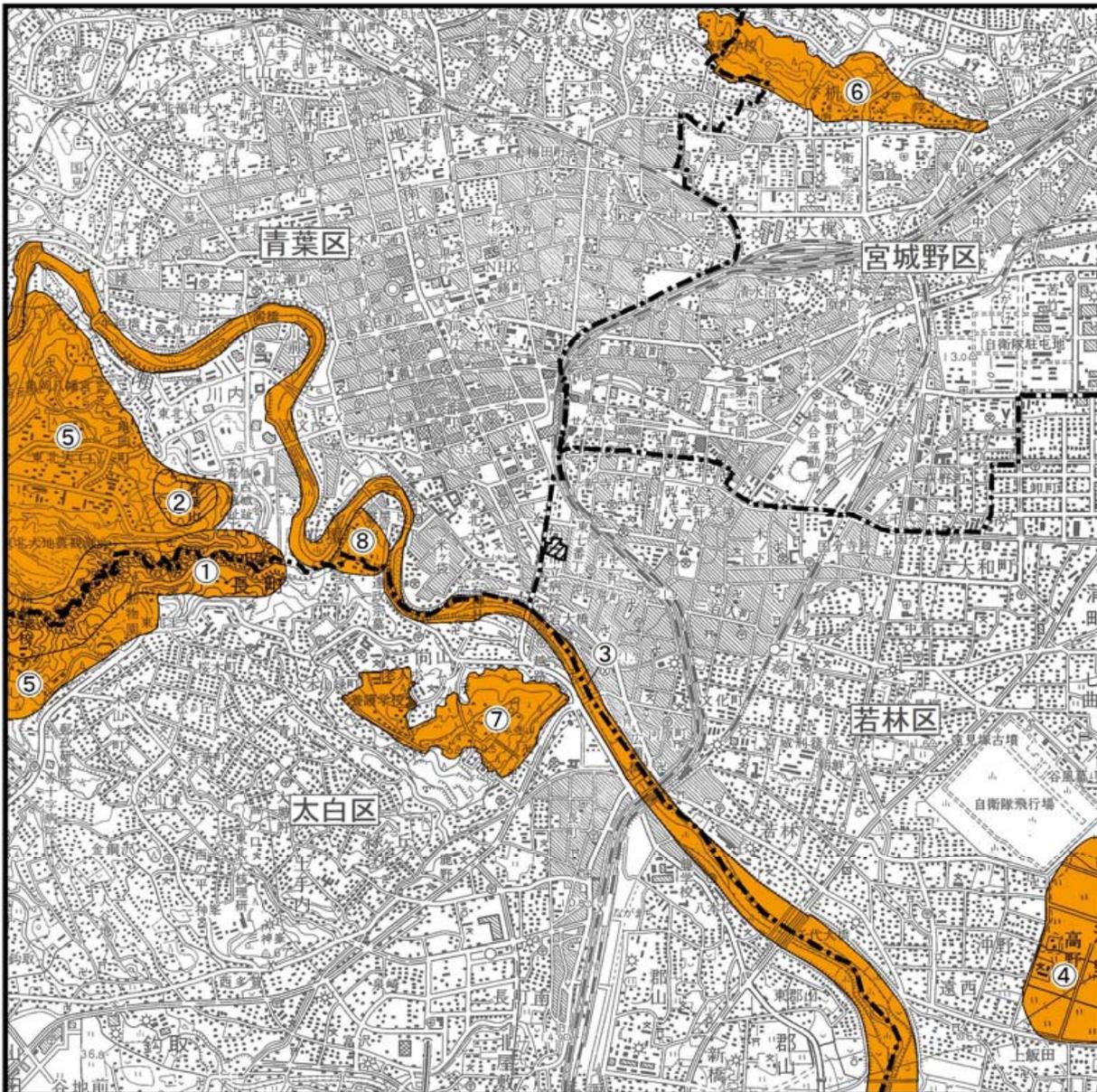
注 1) 表中の No.は図 3-12の番号に対応する。

2) 判断理由は表 3-14に対応する。

出典: 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

## ウ. その他事業の立地上配慮を要する動物

対象事業計画地及びその周辺の植生は, 図 3-9に示したとおり「市街地」であり, 事業の立地上配慮を要する動物種が存在する可能性は低い。



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 動物生息地として重要な地域

出典:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月, 仙台市)

図 3-12 動物の生息地として重要な地域



S=1:50,000

0 500 1000 2000m



### 3.5. 景観

#### ア. 自然的景観資源及び文化的景観資源の状況

調査範囲における主要な自然的景観資源及び文化的景観資源は、表 3-26及び図 3-13に示すとおりである。自然的景観資源としては、竜ノ口溪谷、広瀬川、定禅寺通り等の5箇所があり、文化的景観資源は、堤通の七夕飾り、仙台城跡、瑞鳳殿等の15箇所がある。

表 3-26 調査範囲における景観資源

#### 【自然的景観資源】

No.	名称	文献(※)		
		①	②	③
A	竜の口溪谷	○		
B	仙台市霊屋広瀬川面	○		
C	仙台市広瀬町・広瀬川崖	○		
D	定禅寺通り(けやき並木のアーチ)		○	
E	広瀬川			○
—	—	3	1	1

#### 【文化的景観資源】

No.	名称	文献(※)		
		①	②	③
1	堤通の七夕飾り		○	
2	西公園内(茶屋)		○	
3	仙台城跡			○
4	瑞鳳殿			○
5	大崎八幡宮			○
6	輪王寺			○
7	輪王寺の庭園		○	
8	青葉神社			○
9	晩翠草堂[土井晩翠旧宅]			○
10	東照宮			○
11	宮城県護国神社			○
12	陸奥国分寺薬師堂			○
13	仙台七福神			○
14	仙台の守本尊			○
15	三瀧山不動院			○
—	—	0	3	12

注 1) 表中の No. は図 3-13 の番号に対応する。

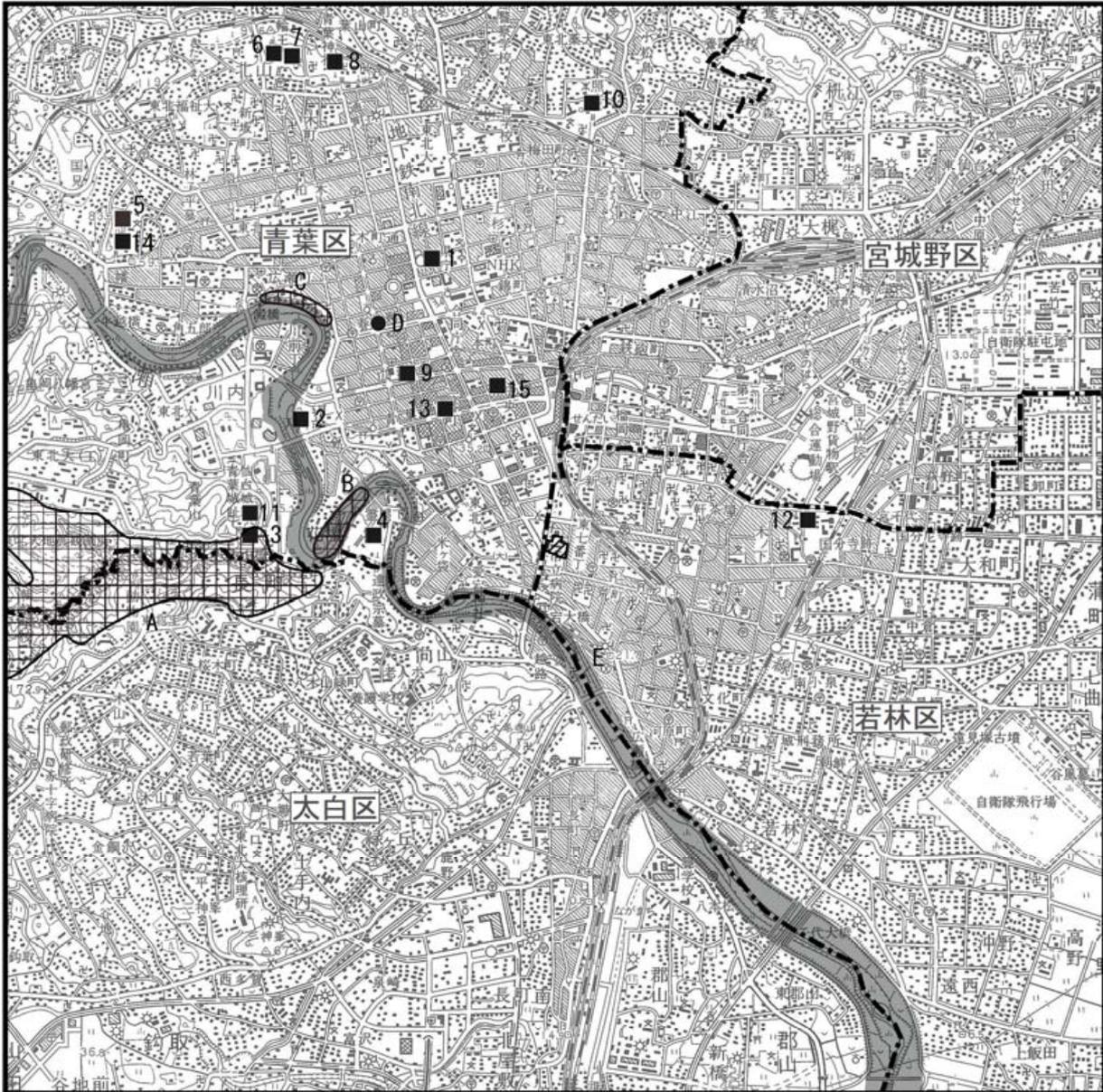
※ 文献は以下のとおりである。

① 「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月, 仙台市)

② 「みやぎ・身近な景観百選」(平成 24 年 9 月, 宮城県)

<http://www.pref.miyagi.jp/tosikei/portal/100sen/hyakusen.htm>

③ 「せんたい旅日和—仙台観光情報サイト—」((公財) 仙台観光国際協会) <http://www.sentabi.jp/>

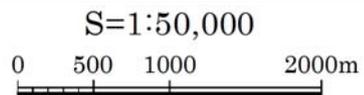


凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 自然的景観資源(A~E)
-  : 文化的景観資源(1~15)

出典:「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年3月, 仙台市)  
 宮城県HP「みやぎ・身近な景観百選」(平成24年9月, 宮城県)  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tosikei/keikan-100sen-kekka.html>  
 せんだい旅日和-仙台観光情報サイト-(公財)仙台観光国際協会  
<http://www.sentabi.jp/>

図 3-13 対象事業計画地周辺の景観資源



## イ. 眺望地点の状況

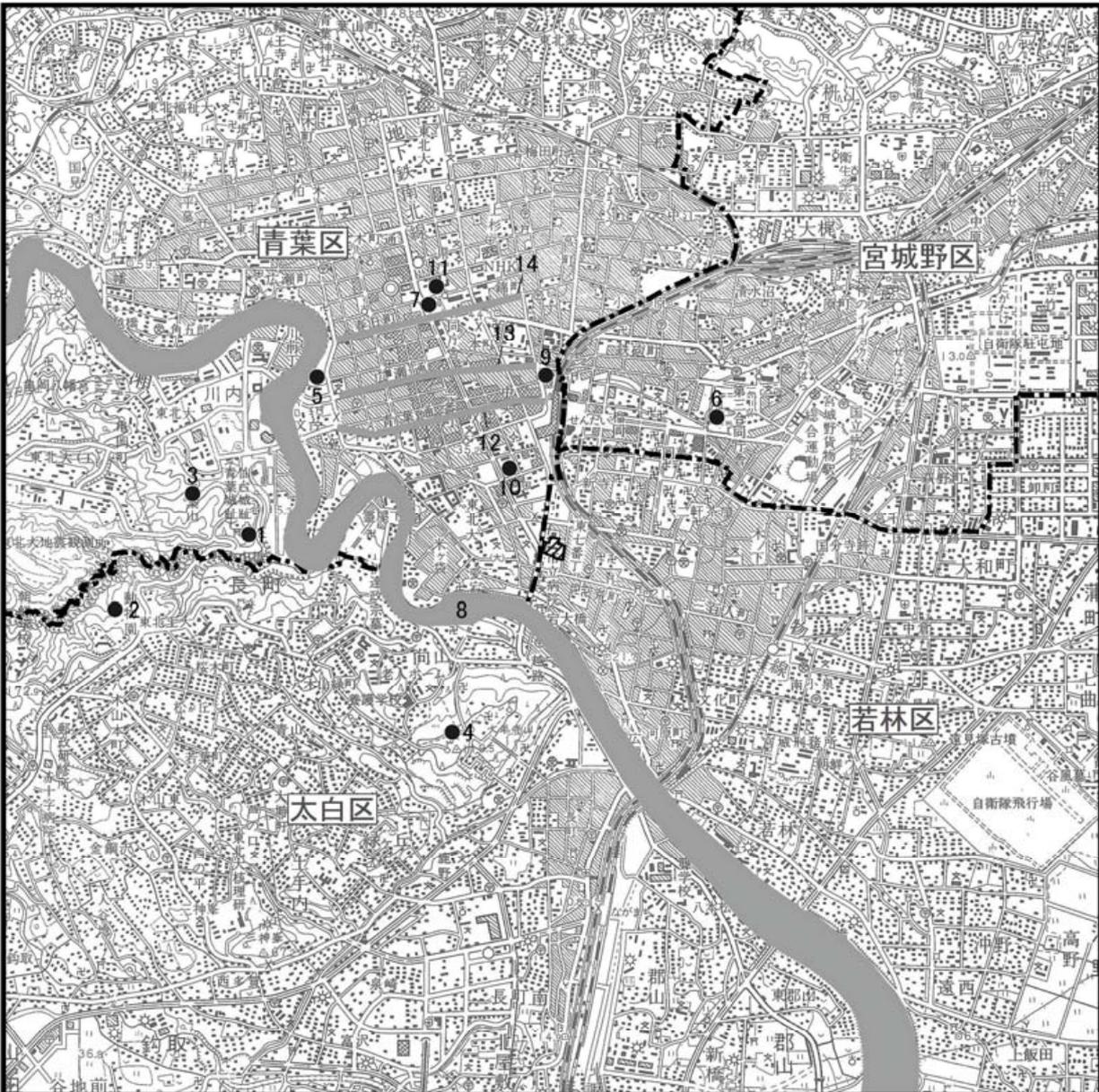
調査範囲の主要眺望地点は、表 3-27及び図 3-14に示すとおりである。

表 3-27 調査範囲における主要眺望点

No.	名称	文献による位置付け
1	仙台城跡	見どころ(歴史・文化関連)
2	仙台市八木山動物公園	見どころ(公園・レジャー関連)
3	東北大学植物園	見どころ(公園・レジャー関連)
4	仙台市野草園	見どころ公園・レジャー関連)
5	西公園	見どころ(公園・レジャー関連)
6	榴岡公園	見どころ(公園・レジャー関連)
7	勾当台公園	見どころ(公園・レジャー関連)
8	広瀬川	見どころ(自然・景勝地関連)
9	AER 展望テラス	見どころ(店舗関連)
10	住友生命仙台中央ビル(SS30)	見どころ(店舗関連)
11	宮城県庁展望ホール	見どころ(店舗関連)
12	青葉通	見どころ(店舗関連)
13	広瀬通	見どころ(店舗関連)
14	定禅寺通	見どころ(店舗関連)

注 1) 表中の No.は図 3-14の番号に対応する。

出典：「せんだい旅日和—仙台観光情報サイト—」（(公財) 仙台観光国際協会） <http://www.sentabi.jp/>



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 区境界線
-  : 主要眺望地点(1~14)

出典: せんだい旅日和-仙台観光情報サイト-((公財)仙台観光国際協会) <http://www.sentabi.jp/>

図 3-14 主要眺望地点



S=1:50,000

